聖法の道

一九五八年三月十七日第三種郵便物認可（毎月一回一日発行）
第二巻第七号 一九五八年七月一日発行

末日聖徒イエス・キリスト教会

モルモンとは？

モルモンとはなにか、彼等は如何なる人か、何を信じているか、彼等の教会の組織は、歴史は、プログラムは何か。50枚に及ぶ写真と共に、これ等の質問に対して本書は答える。ゴルドン・ビー・ヒンクレー著 100円

モルモン経
教義と聖約
高価なる真珠
合本

一つにまとまった末日の聖典。新旧約聖書と共に、イエス・キリストの福音の研究を志す人々の必携の書。

最上質革製本　定価 1,100円

家督権の祝福

日曜学校、系図クラスのレッスン。系図と神殿の仕事の重要性。アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフ、エフライムと続いて与えられた家督権の祝福。名誉ある我々の家系。

末日聖徒必読の書。 100円

然り、汝ら最も善き書より
智恵ある言葉を探し求めよ。
（教義と聖約　８８章１１８節）

聖徒の道

一九五八年　七月号

目次

「大管長メッセージ」……デビド・O・マツケイ大管長　一
開拓者
「伝道部長メッセージ」　ポール・C・アンドラス伝道部長　四
モルモン開拓者の苦難を想う……
平和なくして幸福なし　デビド・O・マツケイ大管長　五
「GEMS OF THOUGHT」
西部への移住は神の御意なり　ブリガム・ヤング大管長　八
すべての人精励勤勉なれ……
ジョセフ・フィルディング・スミス十二使徒会会長　八
主の誡命を厳守する事は盲目的な従順ではない（下）……
スペンサー・W・キンボール十二使徒会会長　一〇
質問欄……
福音の根本的原則を完全に理解するにはどうあるべきか……　一二
表紙の説明……
第四代目大管長ウイルフォード・ウツドラフ……　一六
信仰と証詞……
私の信仰……　東京北　高木富五郎　一八
証詞……　新潟　前田ゆう一　一八
系図のページ……
ホーム・テイーチング(二)……　一九
英国における探求(二)　ジョナサン・M・チエンバレン……二〇
第一回月例地方部合同系図委員会……二一
モルモン経物語（九）……エマ・マ・ピータソン　二三
日本伝道部の回顧（三）……奈良富士哉　二七
ニュース欄……
御紹介（名古屋）……　二九
松本支部春季大会……二九
延びゆく横浜扶助協会……三〇
子供日曜学校発足（西宮）……三〇
二組の結婚式（室蘭）……三〇
山形支部大会……三〇
秋元よし江ピアノ演奏会……三二
伝道本部より……三三
五月の岡町支部より……三三
詩藻　詩・短歌・俳句……三四
編集言……三六

拓者

今から百十一年前の今月である、偉大なる指導者ブリガム・ヤング大管長はソルトレークの平原を見わたして「正にこの土地である、進め」と言つた。

ブリガム・ヤング大管長の卒いた教会の民と、これを追う数多くの隊を成して、引つずく数々の季節に後へ後へとついて行つた人々との為し遂げた業蹟に就いて、多くの讃め言葉が記されているのは正に当然なことである。彼らの示した朽ちることなき堅忍不抜と英雄的行為とは、彼らの簡単ではあるが並ぶものなき物語を読む者のすべてにとつて、これまで絶えず導きとなり励ましとなる光明になつてきたがこれからもまたそうであるにちがいない。人類は死んでしまうかも知れない、しかし原埋原則はいつまでも生きつずける。理想的であることは、常に霊感と発達の真の源泉である。

わが開拓者の背后にあつた数々の要素は何であつたか。それは誠心から求める人々を霊感を通じて現に導きたまいまた将来も必ず導きたもう、愛ある父としての神を信ずる信仰であつた。それは良心の命ずるままに神を礼拝する自由を擁護することであつた。それは霊感を受けた指導者の地位を信頼する崇高な信頼であつた。その信頼が約一万五千人の末日聖徒をして千八百四十六年の秋にノーヴーとウインター・クオータース間の平原に難を避けさせ、また西部の高原に植民をさせたのである。これら開拓者の男女たちは、偉大な事業を継続するためにその生命を捧げたのである。

・・・・世界史に見られぬ開拓者の移住・・・・・

ノーヴーからウインター・クオータースに至り、そこからソルトレーク市に向う移住は、植民史上の顕著な偉業の一つである。

歴史家バンクロフトは次のように断言している、すなわち

「このノーヴーからの移住に匹敵するものは世界史上に一つも見られない。エジプトからの退去は、異教徒の国すなわち偶像崇拝者の国から、主がその選ばれし民に指定した

大管長メッセージ

デビド・オ・マッケイ大管長

開

もうた肥沃な土地すなわちカナンの地へ行[illegible]と[illegible]あつた。ピルグリム・ファーザズはアメリカへ逃れるに当つて、市民の自由或いは宗教の自由を与える様子をほとんど見せない、へんくつな圧制的な民から出て来た。

しかしながら、アメリカという未開の地に於て良心の自由を得んがために旧世界の迫害から逃れて来たその同じ民から、またその子孫や仲間の者たちから今逃れて行く者たちこそ、彼らの生んだ子孫の中の他の者すなわち彼らとその意見や慣習を異にする権利を主張した者たちであつた。・・・・・・・・・・・・・・・

これより以前すでに、モルモンたちは文明のはずれに追いやられていて、そこで彼

らは今やこの市を棄てて、自らを野蛮人たちの憐みんに任せなければならない。過去のきずなはすべて切り裂かれた。かれらは甚しく貧しかったから、最上の望みといっても僅かな生活の必需品を得ることであった。たとえ、慰安やぜいたくのようなものを夢見ることがあったとしても、彼らは心の中にそれを埋める墓を掘って、二度と彼らを悩まさないようにその夢を葬ってしまったことであろう」と。

・・・・七月廿四日に彼らは何を見たか・・・・

千八百四十七年、七月の二十四日に彼らはソルトレークの平原で何を見たか。彼らは生いしげるヤマヨモギを見た。彼らはおおかみのほえる声を耳にした。彼らは、はるかかなたにインデヤンのたく火の煙りを見、また西の方塩の海から照り返す美しい日の光を見た。しかし、そこには住家に適すると思えるようなところはどこにもなかった。そこには彼らの心をひくものは何一つなかった。全く、ここへ来る前に山に住む人たちは、その平原ではほとんど何も成長しないだろうと警告していた。

ところが、今日われわれは何を目にするか。数々の美しい市、数々の美しい町が栄えている。この土地の気候は変った、ここで産する果物には勝るものがない、堂々とした住み心地の好い家がいたるところに建っている。このような有様は何のおかげであるか。まず神の摂理であり、千八百四十七年の開拓者たちであり、またその後年々入った開拓者たちである。この開拓者たちは、建築者であり植民地開拓者であり、わが国民にとっての恩人であり、人道にとっての恩人である。

・・・・大管長が胸中に抱いたものは・・・・・・・

ブリガム・ヤング大管長が「正にこの土地である」と言ったとき何を胸中に抱いていたか。

大管長の説教を誌した報告を読んで、われわれは大管長が胸に抱いていたのは、

第一に、彼が愛していた人予言者ジョセフ・スミスが、聖徒たちは西部へ行って数々の市を建て、そしてロッキー山脈の唯中に於て大いなる民となるにちがいないと言ったその予言の言葉であったことがわかる。

第二に、この偉大なる指導者が「正にこの土地である」という有名な言葉を発したとき、彼はここに於て教会の民が避難と平和の場所を見出すにちがいないことを胸に抱いていた。

第三に、かの小さな隊とそれにつずいて来た人々とが、かの真理を世界の人々に宣言し、兄弟愛の組織と平和となかんずくわれらの父なる神を信ずる信仰とを確立することが出来得るかぎり、この中心地から全世界に向って真理を伝える言葉が放射されるにちがいないことを胸に抱いていた。

第四に、彼はこの場所で礼拝と勤勉と教育と助け合いとを確立することを胸に抱いていた。

・・・・すべての子供たちに教育を施せ・・・・・

教育の重要性に就いて、ヤング大管長は、彼らがソルトレークの平原に入ってから間もない或時次のように言った。

「まず汝らのとりでを築いて自らをりやく奪から守れ。汝らの丸太小屋を建て終るや否や、学業のために充分な数の部屋を充当し最良の教師たちを備え、而して汝らの中にあるすべての小児に、一人のこらず新たに教育をつずける機会を与え、彼らが身を入れて精出すように心せよ。自分の小児らに教育を施す機会がありながら教育をせぬ者は小児をもつ資格なし。汝らの小児たちが義の中に成長するよう神の王国の諸原則を彼らに教えよ」。

予言の成就、避難と平和の地、真理を伝える言葉が放射する中心地、真の礼拝と勤勉と教育と奉仕とを確立する所、以上はブリガム・ヤングが「正にこの地である」と言ったときにその胸の中に抱かれていた思いである。この剛きな信仰を鼓舞し良心の命ずるままに神を礼拝する自由を愛する人に、われわれは毎年七月の廿四日という一日を特に憶えて、感謝を拝げるのである。

伝道部長メッセージ

開拓者の苦難を想う

伝道部長　ポール・C・アンドラス

千八百四十七年の七月、北アメリカの西部にある大ソルトレークの盆地にブリガム・ヤングとモルモン開拓者たちが到着したとき、この人たちはすでに大部分野蛮なインデヤンと野獣ばかりが住んでいる山や平地を越えて一千マイル以上の旅をしてきたのでありました。北海道の函館市から九州の福岡市までの距離がほぼ一千マイルあります。近代の鉄道輸送を以てしても一千マイルはなかなかの旅行でありますが、当時まだミシシッピー川の西に鉄道が出来て居ませんでしたから、モルモン開拓者たちは鉄道で旅行をいたしませんでした。この人たちは家財道具をみんなのせて牛か馬にひかせた車につきそい、歩いて旅をしました。

この旅をする途中で何千人というモルモン開拓者が死んで道のかたわらに葬られました。生命を完うしてその目的地へ着いた人たちも、このような旅のきびしさに疲れ果てていました。この人たちの予言者が指し示した所は不毛の荒地であって、開拓者たちがそこに着いたとき、この盆地の原っぱにたった一本の木がぽつんと立っていました。西の方へもう数百マイル行けばカルフォルニヤの金産地があり、オレゴン地方の肥沃な土地がありました。しかし、モルモン開拓者たちはその予言者ブリガム・ヤングの言葉に従うことにきめ、その荒地の土が非常に固くて最初に「すき」を入れようとしたとき「すき」のはが欠けてしまったほどであっても、どこへも行かないでソルトレークの盆地に止まりました。

モルモン開拓者がたどって来た道のかなたの端にはイリノイ州にノーヴー市がありました。モルモン教徒はこの時すでに全く独力でノーヴー市の建設を完成していました。モルモン教徒がはじめてこの土地を買入れ、千八百三十九年の五月にこの地域へ移り始めたとき、そこには家が九軒あっただけで、土地はきわめて湿気の多い沼地であって馬でさえそこを通りこすのに難儀をしたほどでありました。しかし、モルモン教徒たちは五年の内にその土地の排水をして、当時その附近ではアメリカで比ぶもののなかった人口二万に及ぶ一つの市を建てました。そこには頑丈なレンガ建ての家々、広大な農場や果樹園、数々の店舗や学校および立派な神殿がありました。実に、千八百四十四年にイリノイ州のノーヴーは、イリノイ州のシカゴよりも大きな市でありました。

・・・・素晴しく建設されたノーヴー・・・・

千八百四十三年に、ある英国人作家はモルモン教徒の市ノーヴーを訪れ、次のようにその有様を記しました。

「この市は非常に大きくて、きれいに秩序正しく計画がしてある。すなわち各通りは道巾が広くて互いに直角に交わっているから、完成の暁には市の秩序と荘大さとは非常に増すにちがいない。市はミシシッピーの流れからの、ゆるやかな斜面の上に立って居り、神殿の側に立つときには、絵のようなまわ

りの景色をつくづく見ることもできる。あなたの側には世界の驚異である神殿があり、周囲と下の方にはいろいろな景色の中に点在する美しい店舗、大きな邸宅、きれいな小住宅を望み見ることもできる。・・・・・この市を平和と調和とが支配している。このまわりに並んでいる涼しい緑の庭園の中に設けられ、丘の上を立派な大理石の大建築がおおっていて、その尖っている塔の先端は白と金との光を放っていた。その市は数マイルに亘っているように見えた。そしてその向うの背景には、見事によく耕やされた

こでは、他の都市に居るような酔漢はほとんど見当らず、またあの恐ろしいのろいの言葉或いは神を汚す誓いの言葉は耳に入らない。しかし、外部ではモルモン教徒に関して嵐と暴風雨と混乱とが満ち充ちているのに、内部では萬事が平和と調和に満ち充ちている。(一)「モルモンとは」才八十九頁。

また千八百四十六年に、トマス・L・ケイン大佐はノーヴーを訪れて次のようにその有様を記しました。

「秋になって水位が低くなったミシシッピー川の上流をのぼって行ったとき、私は急流地帯を余儀なく陸路で行かねばならなかった。・・・・私はいたるところむさくるしい、放浪生活をしている怠惰な移住者たちと、彼らの不注意な手で改善もせずに台なしにされた地方とを見あきてしまった。

私は旅路の最後の丘を下っていたが、その時、これまでとちがった非常に心持のよい風景が突然眼の前に開けた。

川の屈曲部に半円形にとりまかれ、美しい市が新鮮な朝日の下に輝いていた。その光り輝く新しい住居は堂々たる円天形の丘

平和がなかつたならば幸福もない。今日・・・・・・国々は平和を切実に求めている。

子供や孫達を軍隊に送つている父母や祖父母達は日々、世界が平和になるように祈つている。

救主がベツレヘムでその産ぶ声をあげ給うた際にもたらされた「おとずれ」は他ならぬ平和の「おとずれ」であつた。そしてこの平和のおとずれは「いと高きところには栄光、神に、地には平和人には恵あれ」と歌う天使の合唱によつて伝えられたのである。

「平和」について救主はこの世での導きと恵みを施し給うその働きの後期に当つて弟子達に「これらのことを汝らに語りたるは、汝ら我にありて平安(平和)を得んがためなり。なんじら世にありては患難あり、然れど雄々しかれ。我すでに世に勝てり」(ヨハネ伝十六章三十三節)と仰せになり給うた。

救主の復活後、戸を閉ぢて十人の弟子達が集つていた時に、主は最初に「平安(平和)なんじらにあれ」との言葉をもつて弟子達にあいさつをなし給うた。またその八日後に十一弟子達が居合せた際にも「平安(平和)なんじらにあれ」との同じあいさつをなし給うた。

兄弟、姉妹達よ、これは何とすばらしい、また輝かしきことではないか。ところで私は以下のことを私のメッセージとして皆様に申し上げたい。平和は外面的なことの中に見出され得ない。平和は内よりもたらされる。「人々の良心がまひしている時や、人々が自らある面倒なことをしでかしたと自覚している時にその心の中に平安(平和)はない・・・・・・」と。平和は義しい心より発生え、義しい生活よりもたらされる。もし我々がその世界に平和を確立しようとするのであるならば、先ず最初に各人から、そして家庭から始めよう。

もしあなた方が今宵平安(平和)を得たいと願うならば、それはあなた方の責任であり、また私の責任であることを忘れないように。

そして平安(平和)を得ることはあなた方の特権であり、また私の特権でもある。

平和なくして幸福なし

デビド・O・マックイ大管長

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

丁寧な、うねが碁盤じま模様になっている美しい郊外が起伏していた。そしていたるところに勤勉と進取の気象と教養のある富のまぎれもない印しがあって、この風景を非凡なまた非常に目につく美しさの一つにしていた」(二)「モルモンとは」才九十頁。

モルモン教会の会員たちがノーヴーに美しい神殿を建て終るとすぐに無法な暴徒たちは襲撃を加えました。予言者ジョセフ・スミスとその兄ハイラムは、千八百四十四年七月廿七日無法な暴徒たちによって無残にも殺されましたが殺人者たちは処罰されませんでした。その結果、暴徒たちはその卑劣な行為に対して何らの手段もとられないと思い、モルモン教徒に対する暴行の罪をいよいよ増し、モルモン教徒たちは、銃口を突きつけられて、彼らの居心持のよい家庭から、彼らの美しい市から、冬空のひどい寒さの中をアイオワの荒野へ追い立てられました。

○・・・・冬空に追い出された聖徒の群・・・

次は「教会歴史粋」才四百二頁（英文）から引用した一文であります。

「シュガー・クリークで野営をした最初の夜に九人の嬰児が生れた。天候険悪で寒さことのほかきびしく、人々は雨露をしのぐ適当な場所がなかった。女詩人エライザ・R・スノウはこの状態を筆にして次のように言った。「私たちが旅をつずけて行ったとき、母親たちはこれまですでに慣れていた人々以外には想像のできないほとんどあらゆる情況の下に子供たちを産んだ。或る者はテントの中で、他の者は荷馬車の中で、或いは烈しい雨の中で吹雪の中で。私は粗末な小屋の雨宿り場の出産のことを聞いた。その小屋の側面は地中に打ちこんだくいに結びつけた毛布でできていたが、木の皮でふいた屋根を通して雨がもっていた。親切な姉妹たちは水が落ちてくるとそれを受けるように皿を捧げて立ち、このようにして罪のない赤児が人生という舞台の上へ最初に入ってきたときに、この新来者とが水浴びをせぬように守ったのである。そしてあらゆる出来事を支配したもう神を信ずる信仰により、母子ともに何の悪い事も起らなかった。

これらの荒野の中で生れた赤児たちの母親は、森の中をさまよい嵐や暴風雨をしのぐことに慣れた野蛮人、すなわち文明と文化の楽しみと優美さとをかって味わったことのない野蛮人ではなかったことを忘れないで欲しい。この母親たちは、自然の野性の中で、その子供たちをあしやいぐさの中や、岩の洞穴のかくれ家で養育する母親たちではなくて、その大部分は東部の諸州で生れて教育を受け、そこでイエスとその弟子たちの教えたままの福音を信じ、自分の信ずる宗教のために、聖徒たちと寄り集って、苦しい情況の下にその信仰と忍耐と勢力とによって、その名が「美しきもの」を表わすノーヴーを造る助けをして居った人たちである。この母親たちは、いろいろな花で飾られ今やちょうど多くの実を結び始めた選り抜きの果樹で内容を豊かにした美わしい家庭をもっていた。

この母親たちは、賃貸をすることもなく売り払うこともなく、これらの家庭に今や最后の別れを告げて来た。そして一台、二台ある場合には三台の荷馬車に積めるだけのなけなしの財産を持ち、荒野を指して出発して来た。行く手は何所？当時この質問に対する唯一の返答は「神知りたもう」であった。（タリッチ――モルモン教団の婦人。才三十二章）(三)ジョセフ・フィードリング・スミス著。教会歴史粋四百二頁（英文）

また次も「教会歴史粋」から引用した一文であります。

「充分春になってからノーヴーを後にするのが聖徒たちの意向であったが、聖徒らの信ずる宗教を憎み、聖徒らの持ち物や財産を貪った人鬼たちは、聖徒たちがそれまで待つのを喜ばなかった。彼らは家庭から追い出されて冬の真最中に大空の下で宿るところのない罪の無い人々が苦痛を受け雨風にさらされるのを少しもかまわなかった。「もしも、われわれの敵の脅迫と敵意のある示

威運動がなかったなら、われわれは自分の家庭にそのまま宿って居ることもできたであろうが、われわれの敵は厳酷な契約をしたにもかかわらず、生命も自由も財産も顧慮することなくあらゆる障害物をすでにわれわれの途上に投げていた。あまりのことに、われわれが談判破裂を避ける唯一の手段は真冬に出立をすることであった。われわれの家庭、庭園、果樹園、農場、街路、橋梁、製粉場、公会堂、壮大な神殿、その他公けの改善の結果を、われわれは、われわれの愛国心、工業、経済、真直ぐな目的および潔白な心の記念碑として、またわが国の憲法に対する不忠と怠惰と不正直の罪をわれわれに負わせた人々の偽りと悪事の生きた証詞としてのこして行く」とはブリガム・ヤング大管長の言葉である」(四)教会歴史原稿。

○・・・迫害を乗越えた聖徒達の信念・・・

この暴徒たちは、サタンに勢いをつけられて、モルモン教徒たちが独特の宗教的信念を有っているというので彼らを襲撃しました。言葉を換えて言うと、モルモン教徒たちは、父なる神とその御子とが実際にジョセフ・スミスを訪れたもうたと信じているというのでノーヴーから追い払われました。彼らは天使モロナイもまたジョセフ・スミスを訪れたし、モルモン経は神の言葉をのせていると信じていました。彼らは最初にバプテスマのヨハネが後にペテロ、ヤコブ、ヨハネの三人がジョセフ・スミスを訪れて神を代表する権能を彼に授けたと信じていました。彼らは末日聖徒イエス・キリスト教会が真の神の本当の教会であると信じていました。モルモン教徒はこれらのことを信じていたために、むちうたれ苦しめられ、殺され女が乱暴され、くり返し彼らの家庭から追い出されました。彼らは自分の信仰を否定することを拒み、否定をする代りに彼らの予言者に従って一千マイルの荒野を横ぎってロッキー山脈の真中にある不毛の荒地へ入って行くことにきめました。彼らはたれも他の人の欲しない場所に植民をし、荒地をバラの花のように栄えさせることに成功しました。彼らは今日ユタ州に栄えて居り、また現在世界中にひろがっている大きな文明を確立しました。

今日当教会の会員を迫害することは大分鎮まって居りますが、それにもかかわらずまだひどい迫害を教会のために喜んで堪え忍びますか。あなたは百ぺんむちうたれて背中の肉をずたずたに切られるよりはむしろ教会を去るでしょうか。あなたは家を略奪され焼かれるよりはむしろモルモン教を止めるでしょうか。あなたは怒った暴徒によって殺されるよりはむしろジョセフ・スミスは予言者でないと言うでしょうか。私共の先駆者であるモルモン開拓者たちは、後から来る者たちが神の真の教会の会員たる祝福を喜ぶことができるように、すべてこれらのことを喜んで身に受けました。私共の先駆者たちは、これらの真の教えを世界中にひろめる働きを続けることを現在私共を信じて任せています。あなたはこれらの人を失望させようとしていますか、またはどのようなぎせいを払っても良いモルモンになろうとしていますか。

○・・・どのように感謝の意を示そうか・・・

千八百四十七年にモルモン開拓者たちがソルトレークの盆地へ到着して以来、毎年七月という月はモルモン開拓者と彼らの為しとげた偉大なこととを思い起す月になっています。毎年七月に全世界の末日聖徒イエス・キリスト教会会員は、特別の行事といろいろの活動をしてモルモン開拓者を尊敬いたします。私たちは、どうしたら最も良く私たちの感謝を示すことができますか。私たちは、どうしたら開拓者たちを最も良く尊敬を示すことができますか。それは教会の中に於ける私たちの義務を忠実に尽すことではないでしょうか。もし私たちが喜んで迫害を受け教会のために死んでもよいならば、私たちは喜んで身を純潔に保ち、安息日を聖くし、智恵の言葉を守り、什分の一を納め、どこに在っても教会の諸活動に加わって教会を強くするのは当然ではないでしょうか。七月中私たちは新しく決心をして、迫害を受けても受けていなくても、良い末日聖徒となって一年中開拓者を敬い尊ぼうではありませんか。

GEMS OF THOUGHT

西部への移住は神の御意なり

ブリガム・ヤング大管長

我々は他に行くところがなかったのでこの山ろく地帯にやって来た。我々はこの荒れはてた砂漠に、この不毛の地に、この高くてごつごつした山ろく地帯に住むため、肥沃な地、イリノイ州にその家屋や財産を残して来なければならなかった。我々が来る迄は誰一人として住むためにこの地へ来ようとはしなかった。しかし今や我々はこの地が我々にとって世界で最もよき地の一つであるということを知っている。

私は人々が我々のこの地への移住について私が何か策を構じたという風に考えて欲しくない。この移住は全能者の摂理であったのである。この民を救い出したのは他ならぬ神の力であった。斯様な計画は決して私が考え出したものではなかった。

私はここに来ざるを得なかった。我々はヴアンクーバー島に行っていたかもしれない。しかしもし行っていたとしたならば、おそらく追い出されていたかまたはもっと疲れ果てゝいたに違いない。しかし我々は今、主が私にその民を導くよう指示し給うた地であるこの山に囲まれた盆地にいるのである。

アダムの時代以来、今に至る迄、この地以上に天の御父によって祝福された地はいまだかってなかった。そしてもし我々が信仰深く謙遜でしかも小麦や「とうもろこし」や「からすむぎ」や果物や野さいや家畜等、神が我々に与え給うたすべてのものについて心から神に感謝し、そしてそれらのものをこの地上に於ける神の王国建設のために使うよう努力するならばこの地はより一層、祝福されるであろう。

我々は引き続きこの山ろく地帯に留るかと誰かが尋ねるならば、私は「然り」とお答えする。我々は悦んで天父なる神の御意をなす限りこゝに留ることができるのである。

「すべての人、精励勤勉なれ」

十二使徒会会長　ジョセフ・フィールディング・スミス長老

主はその啓示の中で「また、われ誠に汝らに告ぐ、およそ己れの家族を扶養せざるべからざる男子には、ことごとく彼をして扶養せしむべし。然もこの者は決して冠を失うことなし。而してかかる者は教会の中にて働かしむべし。あらゆる人は、すべてのことに精励せよ。怠惰なる者は悔改めて行いを改むるにあらざれば、教会の中にて地位を与えらるることなし。」と仰せになり給うた。

まことに主は前記の如き勧告を今日の教会に与え給うたのである。そしてこの勧告はたゞ単に畑を耕すことや作物の収穫や産業に従事することにのみ適用されるものではなく、人々が霊的な事柄にも、日々自ら暮しを立てゝいる物質的な面と同様に、精励勤勉でなければならないということを意味しているのである。

また主は今一つの誡命を与え給うた。「シオンに住む民は、その任命せられたる働きあらば、これを憶えて全く忠実に務むべし。およそ怠る者は主の前に憶えらるべければなり。今やわれ主は、シオンに住める民を悦ばず。そは、怠る者その中にあり、彼らの子らもまた今や次才に悪事に増長し、永遠の富を熱心に求めずしてその眼

は貪欲を以て充さるればなり。」

もし主が今日我々に向ってこれと同じことをくり返し語り給うならば、主はこの誡命をより一層強調し給うであろうと私は考える。

「見よ、彼らはわが福音を悪しき人々の集りの中にて説かんがために遣わされたる者なり。これを以てわれ彼らに一つの誡命を与う。すなわち汝らは時を空しく過すことなかれ。また、人々に知られざらんがために汝らの才能をかくすべからず。」

最大の賜なる永遠の生命

七十人会最高評議員会会員　ミルトン・R・ハンター

教会の青年男女の皆様、皆様方はこの世の中で最も富める方々である。と申し上げると皆様方の幾人かはその心の中に自分達は無一文だと云うかもしれない。しかし私は皆様方がこの世で得られるお金をたとえ十セントしか持っていなくとも又は百万弗持っていてもその様なことに一向お構いなく皆様方は富める方々であると申しあげる。

皆様方はイエス・キリスト教会の会員でありまた我々の主にして救主なる御方の回復された福音をうけ入れている人々である。皆様方は神の御子の神権の聖なる神権を有している。皆様方は神を愛し、その誡命を守る人々にもたらされるすべての祝福をその掌中に持っている。実に皆様方がすべからく、勢力をつくし、思をつくし、体力をつくして神に仕えさえすれば人類にとって最も大いなる賜であると主が申された永遠の生命の約束すら与えられているのである、（教義と聖約四章二節、五十章五節、五十一章十九節）

百年以上前に、永遠の御父なる神とその独子が予言者ジョセフ・スミスに親しく顕れ給い、福音の最後の神権時代を開き給うた。そしてこの偉大なる示現に続いて多くの天来者が予言者ジョセフ・スミスに現れ、人類の救に必要なすべての賜物、祝福、力、儀式、神権を附与した。教会の青年達が今日有しているものは、他ならぬこの神権でなりまたこれらの賜であり、祝福である。・・・・

我々が今日も明日も一週間後も百年後も実に百万年後もいやいつまでも幸福であるようにということはまことに神の目的として居給うところであり、またその御意に他ならないのである。しかし皆様方はその心の中に「そんなに長く生きない」と云われるかもしれない。が我々はそれ程に長く生きるのである。生命は永遠なるものであり、忘れてはならない大切なことは、我々の今日の生き方、即ち我々の現世での生き方が我々の永遠に亘る幸福、我々の住むべき永遠の状態を決定するものであるということである。

＊＊＊

土の誡命を敬守するは「盲目的な従順」ではない（下）

十二使徒会会員
スペンサー・W・キンボール

我々は自動車に乗り一時間に百哩以上出すことも、消火栓上に駐車する事も出来ます。また道の反対側を運転する事も出来ます。銀行を襲い、捕縛に抵抗する事も出来ます。けれども我々は早晩最後の一点迄も罰の支払いをせねばならないのであります。如何なる人も刑罰を無期限に避けられる程、賢明ではなく、また広範且つ根本的な報いの律法に対決出来る程、賢明ではありません。自由意志なくして人は生命なき者となり、弱きは行者として、世にも彼自身にも価値なき者となります。

我々の天の父は、すべてこれ等のことを知りたまい、我々にこの自由意志の根本原則を与えたのであります。神は我々に服従することも、善意におしつけることも、また我々の行為を強制することも出来ます。けれどもそれでは、我々を意志も目的も進路をも持たない、骨なき存在たらしめてしまうのであります。

我等の主は、洪水前に彼の被造者たちが彼の誡命を破っているのを見て痛く悲しんだが、決して強制はしませんでした。彼等は彼等自身の自由意志を持つべきでありました。

「主、エノクに言いたもう。見よ、これら汝の兄弟らを、彼らはわが手に成れる工なり。われ彼らを創りし日に彼らの知識を与え、エデンの園に於て人に彼の自由意志を与えたり。」

彼等は、彼等の悪行が充ちあふれて、世が洪水となり、その住民が溺死する迄、予言者の警告を無視する自由を与えられていました。

忠実に対する報賞と不従順に対する刑罰は判然としています。神は寛容であり忍耐強く親切であるが、これに反し人及び自然の法則は屢々迅速且つ苛酷であります。

義しく且つ賢明であった我々の先祖アダムとイヴは、子供のような信仰を持って生れた従順のよい模範でありました。

「主、彼らに誡命を下して宣いけるは、主なる汝の神を礼拝し、主に供物としてその羊の群の中の初子を捧ぐべしと。アダムは主の誡命によく従いぬ。多くの日を経て、主の天使一人アダムに現われて言いけるは、汝何故に主に犠牲を捧ぐるやと。アダム彼に言いけるは、われその故を知らず、ただ主の誡命に従うのみ。ここに天使語りて言いけるは、この犠牲を捧ぐることは、御父の生みたもう恩恵と真理に満てるただ独りの御子が犠牲となりたもうことのひながたなり。」

これは盲目的服従であろうか？否違います。彼等はエホバを知って居り、彼の声を聞き、エデンの園で彼と共に歩き、彼の善意と、義と理解を知っていました。故に長い間彼等は汚点なき仔羊を殺しその理由をも究めず、ただ其処には律法の正しい目的があり、その理由は従順に従った後に、釈明されるであろう事に全ぷくの信頼を置き確信を以て祭壇に供したのでありました。

らい病人が癒されるにあたって従順は至上のものでありました。彼等は叫びました。

「声を揚げて言う「君イエスよ、われらを憐みたまえ」イエス之を見て言いたまう「なんぢら往きて身を祭司らに見せよ」彼ら往く間に潔められたり。」

祭司が癒すことに何等貢献しなかった事は明らかであります。恐らく十人とも彼等が癒された事を知らなかった祭司の管轄区域に住んでいたのでありましょう。その奇蹟は彼等が完全に従順に従って始めて生じました。そこには盲目的服従はありません。これ等のらい病人たちは、キリストが彼等を救うであろうことを知っていました。

彼等は彼の能力ばかりでなく彼の善意と誠

実に対する信仰を持っていました。

同様にまた生れつきの盲人で完全に視力を回復された人も、権威者の声に従ったのでありました。疑い深いパリサイ人によって、無比のこの視力回復に就て質問された時、彼は、しっかりと答えました。「パリサイ人らも亦いかにして物見ることを得しかと問いたれば、彼いう「かの人わが目に泥をぬり、我これを洗いて見ゆることを得たり」爰にまた盲人なりし人言う「なんぢの目をあけしに因り、汝は彼に就きて如何にいうか」彼いう「予言者なり」答う「かれ罪人なるか、われは知らず、ただ一つの事をしる、即ち我さきに盲人たりしが今見ゆることを得たる是なり」

それは単純な事でありました。少しのつばと少しの泥と、簡単なぬり方と、単純な命令と従順な信仰の行いがあっただけでありました。そして暗黒は光明に置きかえられたのでありました。「主よ、我は信ず」彼は喜んで拝した時に、こう言いました。貴方はこれを盲目の服従と言いますか？この人は盲人でありましたが、見る眼のある従順でありました。

救主は次の通り為し、且つ告げて言いました。

「かく言いて地につばきし、つばきにて泥をつくり、之を盲人の目にぬりて言い給う「ゆきてシロアム（釈けば遣されたる者）の池にて洗へ」すなわちゆきて洗いたれば、見ゆることを得て帰れり」」

何と簡単な行程でありましょうか！また何と親切な命令であり何と忠実な従順でしょうか！そしてその報いは何と輝かしかった事でしょうか！

不思議な事に、我々はつば をぬぐう為に清潔な殺きんされた布を用い、道路上につばきを吐く事を禁じられている。また我々は泥の汚れから殺きんする為に皿やなべをしや沸し、石けんを以て消毒します。我々は台所で特に病院、病室に於てただ蒸りゆう水のみを使います。

けれどもここで主は、すべての我々の衛生法則を無視して、つば とばいきんの横行する泥と、労働者が汗を流し、疾病者がつかるシロアムの池の不潔な水をすすめたのであります。ただ泥のみで眼が見えるように癒す事が出来たのであろうか？つば の中に病気を癒す医薬的効果があったのであろうか？シロアムの水の中に、生来盲目の眼を開ける治癒の材料が入っていたのであろうか？その答えは判然としています。その奇蹟は信仰の腹に宿り、従順の行為の内に生れ育成られたのである。

若し命令がつばきの代りに油であり、泥の代りに薬草であり、シロアムの汚水の代りに湧き出ずる清い水であったとしても、結果は同様であったでしょう。けれども或者は油と薬草と清い水が眼を癒したと言うでしょう。けれども教育のない人でもこれ等が癒す事が出来ない事を知っています。結局に於て一つの結論が引き出される。無比の奇蹟は、従順なる信仰の結果であります。けれども盲人が命令の少しでも従わなかったら、明白に彼は生涯、死ぬ迄盲人であったでしょう。

今日、霊的律法に強制がなくとも、その祝福を自覚するなら当然従うべきであります。

主は言われました。

「汝らわが言うところを行わば、主なるわれこれに対して責任あり。されど、汝らわが言うところを行わずば汝ら何ら約束を受けず。」

「主なる汝の神言う。聴け、わが名を公言する人々よ。見よ、わが怒りは逆く者に向いて燃ゆればなり。されば、われ国々の民に怒りを下すべき裁きの日に彼らはわが腕とわが憤りとを知らん。」

「また、およそ教えにそむく者たちは大いなる悲しみに刺し貫かれん。そは、彼らの罪悪は公に告げ知らされて、そのかくれたる行為の発かるべきを以てなり。」

「見よ、主なるわれ声を上ぐれば事従わざるべからず。この故にわれ誠に告ぐ、悪しき者たちは用心せよ。逆く者たちは怖れ震い、神を信ぜざる者たちは口をつぐむべし。そは、わが憤りの日は旋風の如く彼らに襲い来りて、すべて生くる者われの神なることを知るべければなり。」

「されば、わが民の律法に従順なることを覚るまでは必ずこれをこらしむるを要す。もし必ず要すれば、彼らの受くることによりて打ちこらしめらるるなり。」

「すなわち、われら何にても神より祝福を受くる時は、この祝福の基く律法に従うによりて然るなり。」

このように我々が自らへり下って喜んで主の誡命に従う時我々は英智的、創造的従順を与えるのであります。

一、主の櫃を担う者は清くあれ
二、我が聖日に祈りの家に行くべし
三、蔵にすべての什分の一を持ち来たれ
四、安息日を憶えてこれを聖潔すべし
五、汝は神の殿なり、アルコール、煙草、茶、コーヒーを以てこれを汚すなかれ
六、悔改めよ、然らずば罪に定められるべし
七、主の御前にひざまづくべし
八、寄くな、寄かれざらん為なり
九、人は水と霊とによりて生れずば、神の国に入ること能わず
十　人、栄えに進まんとせば新しく且永遠の聖約に入らざるべからず
十一、此の神権に来たらざる者は禍なるかな

神よ、すべての教会員をまた汝の「造り給いし世のすべての人の上に彼等が汝の誡命を守るよう祝福を与え給え、イエス・キリストの御名を通してお祈り致します。

アーメン

質問欄

福音の根本原則を完全に理解するにはどうあるべきか

「質問」

福音の根本的原則によく従う事が出来るようにそれらを完全に理解するのは教会員の責任である。しかし、ある教会員の中にはこれらの誡命に就ての知識を得たいと望みも、また何ら関心も示さない者が極めて多い。その結果、多くの人たちは調和のとれない、神の教えに従順でない生活をしている。こうした考えは更に今日この世界で教えられている多くの偽りの教義や哲学によって惑わされ易い危険にある。この点についてどう考えたら良いか。私は余りに批判的であり過ぎるか。

「解答」

余りに批判的過ぎるという事はない。標準聖典中にある啓示は常に教会員たちに啓示を一心に研究するように教えている。何故主は我々が理解しなくとも、また従わなくとも啓示や誡命を与えたもう　たのでありますイエスは御自分に反対した疑い深いユダヤ人たちに次のように仰せになった。

「汝らは聖書に永遠の生命ありと思いて之をしらぶ、されどこの聖書は我につきて証するものなり」（ヨハネ伝五章三十九節）

主はエデンの園から放逐されたアダムに救いの計画をお示しになり、左のように仰せられた。

「この故に、汝らの子らに教えよ、すなわちすべての人何所にあるもことごとく悔い改めざるべからず。然らざれば彼らは決して神の王国をつぐこと能わず。すなわち神の御前に住むこと能わざればなり。アダムの言葉にて「聖なる人」とは神の御名なり。神の生みたもう独子の名は「人の子」なり。こはすなわちイエス・キリスト、義しき判士にして「時の絶頂」に来るべし。故にわれ汝に一つの誡命を与えてこれらの事を汝らの子らに自由に教えしむ。曰く、罪によりて堕落は来れり。その堕落によりて死は来れり。汝ら水と、血と、わが創りし霊とによりてこの世に生れたれば、塵よりして生ける「霊の結合体」になりぬ。されば、誠に汝ら水と「みたま」とによりて再び生れ、わが生みし独子の血によりて清められ

て天の王国に入らざるべからず。かくして汝らすべての罪より清められ、この世に於て永遠の生命の言を受け、来るべき世に於て永遠の生命、まことに不死不滅の栄光を受くるなり。そは汝ら水によりて誠命を守り、「みたま」によりて義とせられ、血によりて聖められる故なり。この故に、天の記録、慰め主、不死の栄光に属く平和なること、すべてのものの真理、すべてのものを生かしすべてのものに生命を与うるもの、また智恵と憐みと真理と正義と審判とによりてすべてのものを知りすべての権能を有するものを汝らの中に宿らしむ」

故に啓示された真理を知る事は我々の義務であり、主も真理を探求し、その教える事に従う人たちに対してすばらしい約束をお与えになった。即ちこの類の人たちは天に住す父なる神が完全な御方であるように完全な人間になれるとの約束を受けている。次に示す御言葉程に美しい、また遠大な御言葉は他にないと考えられる。

すばらしき約束

「人を徳に導かざるものは、神によるにあらず暗黒なり。神によるものは光明なり。その光明を受けて神に従うことといよいよ久しき者は、その受くる光明いよいよ明らかなり。その光明いよいよ明らかとなりてついには完き昼となるべし。」

真理に生き、真理を実践する人たちに対してはすばらしい約束　即ち神の日の栄にて栄光を受けるとの約束が与えられている。更に主は他の啓示の中で

「「みたま」は世に来るあらゆる人々に光を与え、また「みたま」はその声を聴く全世界のあらゆる人々を照すなり。この「みたま」の声を聴くすべての人は神に来る。すなわち、御父の許に来るなり」と仰せになられた。

記録をつけよとの誠命が与えられず、また主と人間との交わりに関して何ら記録がつけられなかったなら、この世界は極めて野蛮な状態に追いやられ、サタンは完全にこの世界を我が物にしてしまったであろう。そして初期の時代（世代）に関する知識は全く伝えられる事はなかったであろう。主は愛と慈愛とをもってその御言葉を書き誌す事の必要を知っておられその御言葉の多くは誤った形式によって伝えられはしたが、神の力により保存されていた。国々が著しき程度までその文明を築きあげる事が出来たのは実にこの聖なる記録に依存する所大であった。

末日聖徒は福音の回復によっても光明を与えられている故、二重に主の御言葉の祝福を受けている。即ち主は多くの輝やかしき福音の真理を含むユーフアイ人、ジエレド人の記録を与えたまい、更にアダム・エノク及びアブラハムに与えたもうた多くの事柄を今日回復されたが、後者に関する事柄は現在高価なる真珠の中に見出される。教会員の中にこうした記録を読み、研究し、学ぶ機会を活用しない者があるとすれば、誠に残念な事である。主は予言者を通して啓示を与えられ、また人々にそれらの原則を研究するように誠命を与えたもうている今日、　それらを研究する事を怠るなら、それは我々に附与されている祝福や主に対して感謝しようとしない気持を示し、誠に不名誉な行為である。ヨハネ黙示録の中にヨハネが最後の審判の時にあらゆる書物が開かれるのを見たと誌されている。

「我また死にたる者の大なるも小なるも御座の前に立てるを見たり。而して数々の書開かれ、他にまた一つの書ありて展かる、即ち生命の書なり、死人は此等の書に記されたる所の、その行為に随いて審かれたり」。

これらの書物の中に主からの直接の誠命でないものも含まれるであろうということは考えられ得る。

モルモン経に就ても云えば、主はこの書物がこの時代に極めて大切な書である事を知って居られた故この書は今日この世にあらわされるために主によって保存されていたのであった。

「・・・そしてこの記録の目的は、イスラエル一家の残りの子孫に、その先祖のために主が為したもうた大きな御業をことごとく示

して、残りの子孫が主の誓約を知り、かれらはいつまでも棄てられないと言うことを知らせ、またユダヤ人と異邦人とにイエスは永遠の神なるキリストにましまして、万国の民に現われたもうことを確信させるためである。・・・・」

啓示

を研究せずして如何にこの事を知る事が出来るであろうか。注意深く主はこれらの記録を我々のために保存され、「時」が来た時にモロナイをお遣わしになった。モロナイはそれを地中にうずめてかくし、「時」が来た時にそれらを世にあらわした。更にこの書に関して三人の見証者が備えられていたという事はこの教会に対してばかりか、世界の人々に対して極めて重要な事であった。これら三人は自分の見証を効果あるものとせしめるために天使の前に立ち、また全世界に証詞をたてるために神の御声を耳にした。この書物が若し人間の救いのために啓示された重要なおとずれの一つでなかったなら、何故三人は全世界に向って証詞をたてる必要があったであろうか。

我々の弱点を知りたもう主はニーフアイ人を訪れたもうた時、彼らが主と交わしたすべての聖約とすべての教えを書き誌す事をモルモンに禁じた。モルモンは自ら書こうとしたが、主が「少しの部分だけ」を記録するようにとお命じになったと云っている。

「私がこれに書いたのは、イエスが民に教えたもうたことの幾分かだけである。これをここに書いたのは、この言葉がイエスの告げたもう通りに異邦人の手を経てまたこの民に伝えられるためである。この民が始めこの幾分かを授けられるのは、かれらの信仰の厚いか薄いかを試みるのに必要である。もしかれらがこの幾分かを信ずるならば、これより以上に大きなことをかれらに示そう。しかし、かれらがこの幾分かも信じなければ、これ以上に大きなことは伝えられずに、かれらは罪ありとされるのである。」

この事はジェレドの兄弟によるすばらしい書についても真実である。主ははじめから終りに至るまでのすべての事を彼にお示しになったが、それらは誰れも読めないように封ぜられるべきであるとの命を与えたもうた。主は

「主は私に次のように仰せになった。「汝が封じておくこれらのものは、異邦人がその悪事を悔い改めてわが前に清くなるまでかれらに伝わらず。異邦人がわれによりて望くさるるために、ジェレドの兄弟の如くわれを信ずる日来らば、われはジェレドの兄弟の見たることを異邦人にも示して、わがすべての啓示の意義をかれらに了解せしむべし。天地とその中にあるすべてのものの父たり、神の子たるイエス・キリストかと仰せになっている。救主の訪れたもうた後ニーフアイ人は義しき人たちとなったが、この時主はこの記録を彼らに所有させた。しかし、彼らが堕落した時には予言者を通してそれらの記録を再び封ずるようお命じになった。

それ故より大いなる事柄を取り去られるのは我々の心が頑なにされ、与えられている「少しの部分」さえも喜んで受け入れなくなるからである。教義と聖約百三十章に次のように書かれている。

「およそ、われらのこの世に於て達する英智の一切は何にてもよみがえりの時われらと共によみがえるべし。さればもしある人ありて、精励従順によりてこの世に於て他の人よりも一層勝れたる知識と英智とを得ば、未来の世に於てそれだけ利を得べし」

次の

教訓もジョセフ・スミスを通して啓示により我々に与えられている。

「神のみもとより退歩する時に限り、われわれは悪魔のもとえおち、知識を失うに至る。知識なしには、救われ得ない。われわれの心が悪にみたされ、且つ悪しきものごとを学びつゝある時、われわれの心の中には、良きもの又良きものを学び入れる余裕がない。神は、善ではないのか。善であるなら諸君も善たれ。神が忠実であられるなら諸君も忠実になれ。信仰に徳を加え、徳に知識を加えよ。そしてあらゆるすべての善を

進い求めよ。人間は知識を得るより早く決して救われない。知識を持たなければ、悪しき力によって他の世界に導かれ、そしてそこに囚われてしまうからである。悪しき霊は、もっと多くの知識をもち、従って、地上にある多くの人間たちよりはるかに力がある。故に、われわれの助けとなり、且つ神の事柄に関する知識を与えるところの啓示が必要である」

「信仰に知識を加えよ。知識の原則は救いの原則である。この原則は信仰あつい、勤勉な者によって理解される。救われるに充分な知識を得ない者は罪ある者とされるであろう。救いの原則はイエス・キリストに関する知識を通して与えられる。」

天使モロナイはジョセフ・スミスの所に現われた時、イザヤ書第十一章を引用し、この言葉は間もなく成就される筈であると云った。この章には次の如き言葉が書かれてある。

「斯くてわが聖山の何処にても害うことなく傷ることなからん、そは水の海をおゝえるごとくエホバをしるの知識地にみつべければなり。」

又エレミア書三十一章の集合とシオンとエルサレムの贖いに関する主の御言葉の中には、その当時主がイスラエル人と新らしい聖約を交わされてその聖約を彼らの心に植えつけ、主は彼らの神であり、彼らは主の民であるとの約束が示されている。

「人おのおの其隣とその兄弟に教えて汝エホバを識と復いわじ、そは少より大にいたるまでことごとく我をしるべければなりとエホバいい給う、汝エホバを識れと復いわじ、そは少より大にいたるまでことごとく我をしるべければなりとエホバいい給う、我彼らの不義を赦しその罪を赦しその罪をまた思はざるべし。」

現代の状態からこの大いなる日に対する備えをする前に大きな清めと悔改めがなされねばならないという事を知る事が出来るであろう。今日のすべての人は主を知り、その教えに従う必要がある。故に主が福音の知識を増し、主の御前に於て正しく生きるために必要なすべての機会を充分に利用する事は我々教会員の義務である事を知らねばならない。

ウインタークオーターの悲劇

エイヴアード・フエアバンクスは開拓者に常習の悲しみの状景、広原の墓にその子供達を埋葬する悲しみに打ちひしがれた母と父の姿を彫刻した。この記念碑は今はオマハの一部となつているウインタークオーターの古いコルモンの共同墓地に建つている。ここにはノヴーとソルト・レーク市の間で死んだ6000人の内の600人が埋葬されている。

表紙の説明

第四代目大管長 ウイルフオード・ウツドラフ

ウイルフオード・ウツドラフは、アーミングトン・ヘートフオード郡コネチカツトで、一八〇七年三月一日に生れ、一八三三年十二月三十一日にバプテスマを受け、一八三九年四月二十六日、使徒に聖任された。ウツドラフ大管長は性来の宣教師で英国及び米合衆国の各方面で偉大なる働らきを遂行した。ウイルフオード・ウツドラフは一八八九年の四月の大会で、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長に支持された。

ウイルフオード・ウツドラフ大管長の時、教会は多妻結婚を信じていた為、非常に迫害に直面していた。多妻結婚を弾圧する為、多くの条令が採択され、法律が制定された。

終局に於て多妻結婚は禁止され、その法律は米合衆国最高裁判所より国法として支持された。

聖徒たちが、この受難の最中、ウイルード・ウツドラフ大管長は主にその助けを求めた。彼の心からなる懇願と不断の乞い求めに応じて主の言葉は啓示により多妻結婚の実施を中止すると答えられた。

末日聖徒は反一夫多妻の立法は、彼等の宗教的権利を制限するもので あると感じて政府によってとられたすべての行動に抗議した。最高裁判所が、この法律を支持した時、教会には之に従うか、違法者として立つか、その他に道はなかったのであった。彼等は決して裁判所の行動が正しいとは感ぜず、また主から啓示によって彼等に与えられた誡命を停止させる権力を裁判所の者たちが持っているとも思わなかった。ウツドラフ大管長の「公式の宣言」が彼等を救った。人々は彼等の責任を既に果した。主は彼等に誡命を与え只主のみがよくその停止を許すことが出来たのである。ウツドラフ大管長は一八九〇年九月二十五日附の彼の日誌の中に次のように述べている。

〃私は私の生涯の途上に於て、教会の現世的な救いの為に行動せねばならない状況下の時に、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長になった。

米国合衆国政府は多妻結婚或は族長結婚の故に末日聖徒を滅ぼそうとする見解をとり、その法律を通過させた。そこで私は主に祈り霊感された後、次の公式の宣言を発する。そしてこれは私の補佐である副管長たち及び十二使徒によって支持されたものである。

同じ日に、公式の宣言は次の通り発出された。

「大方の各位に

ユタ州政府委員の内務きょうに送付せる近頃の報告中、目下なお多妻結婚の式が挙げられ、また四十件以上にのぼる多妻結婚昨年六月以来または昨年中にユタ州に於て結ばれ、また当教会の主脳者らが公開の説教中に多妻結婚の実施を継続するを教えこれを奨励せりと申立つる旨の新聞至急報ソルトレーク市より政治的目的を以て送られ今世上にひろく発表せられ居るを以て、この故に、余は末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として、これらの非難は虚構なることをここに最も厳粛に宣言するものなり。われらは、現今多妻結婚を教えて居らず、また何人にてもこれを実行するを許すものにあらず。また、余は四十件またはその他何れの件数に上る多妻結婚も、かの期間中に当教会の神殿または州何れの箇所にても挙行されたることを否定するものなり。ここに一事件の報告ありて、千八百八十九年の春ソルトレーク市の「エンダウメント・ハウス」に於てこの種の結婚挙げられたりと結婚せるものたちその中に於て申立つれども、今に至るも余は何人が挙式せるや知るを得ず。またこの事に就きて為されたる事は、何によらず余の関知せざるところなり。この申立による事件の結果とし

て、かの「エンダウメント・ハウス」は余の指令によりて直ちに取りこわされたり。議会が多妻結婚を禁ずる法律を制定し、またその法律は最高裁判所により憲法に基くと宣言されたるが故に、余はこれらの法律に服従し、また余の管理する教会の会員を動かして同様にこの法律に服従せしめんことを宣言す。特記せられし期間中に教会員に為したる余の教えまたは余の同僚の教えたる中には、多妻結婚を強いて寛えこませまたはこれを奨励すると、道理に適うように解説し得るところ何ものもなし。而して当教会の如何なる長老も、かくの如き教の意味を含むものと思わるる言語を使用したる時は直ちに譴責せられたり。而して余は、末日聖徒に対する忠告は、国法により禁ぜられたる如何なる婚姻もこれを結ぶことを止むべし、と言うにあることを公に宣言す。

末日聖徒イエス・キリスト教会大管長
ウイルフォード・ウッドラフ

末日聖徒の歴史上劃期的事項の一つは一八九三年四月六日に於ける、ソルト・レーク神殿の献堂式である。一八九三年四月六日に始められた献堂の儀式は数日間に亘って続き、最初の儀式に満員の為に入れなかった多くの教会会員たちの為に毎日祈りが繰返された。

儀式は印象的であり多くの聖徒たちは献堂式の間に天使及び其他の現れを見た。

ウッドラフ大管長は一八九八年七月二十四日、パイオニヤ、スクウエアの献納式上に於て最後の公式な話をされた。その後数日にして彼は、その健康の為に希望して大平洋岸に移った。彼は一八九八年九月二日にカルフォルニヤ、サンフランシスコのイサク・トウルンボ大佐の家で死んだ。彼は教会が負催から脱却するように非常に苦心したが、成し遂げられなかった。ウッドラフ大管長は死んだ時九十二才であった。彼の生涯は単純、高潔を以て特長ずけられている。彼は数十年の間教会の歴史家として仕え、彼が証人となった重要事項を詳細に記した顕著な日誌を保存している。

図書案内

教義と聖約・高価なる真珠・モルモン経合本	1,100円
教義と聖約・高価なる真珠	300円
モルモン経（新訳）	300円
新旧約聖書（口語体・文語体）	200円
回復された神の教会（神権会用）	150円
完成への道	200円
信証講義	200円
教会略史	100円
初等協会教科書	150円
扶助協会手引	50円
日曜学校	
福音の実践	150円
古代アメリカの生活	100円
万人のよきおとずれ	100円
古代の使徒	100円
聖典中の指導者	150円
霊的成長（2）	150円
新求道者のための福音の根本原則	25円
家督権の祝福	100円
讃美歌	
末日聖徒讃美歌	300円
末日聖徒讃美歌抜萃	30円
子等は歌う	100円

御註文は各支部へ

信仰と証詞

私の信仰

東京北　高木冨五郎

私は「ケシの種」ほどの小さな信仰をも持てない弱い者です。

他人の前で福音の話をしたり、五十年もの昔からこの教会へ来て、すばらしい真理の光を聞いていながらどうして信仰が弱いのかと、いつも反省させられては主のお助けをお祈りしているのです。

私はいつでも、求むるもののある時はお祈り致します。例えば信仰の弱まった時など、心を尽して主のお恵みを祈り求めています。けれども私が主に祈り求める時の心が、私の生活の各面ににじみ出るほど、その行いに真実性があるだろうか、と考えて見ると、少しおぼつかないものがあることを否定できません。そこでまたびっくりして、心をこめて主にお祈りいたします。

一九〇九年十月、私は実兄の高橋仁吉兄弟（札幌支部の会員でした）から末日聖徒イエス・キリスト教会が東京に本部があることを知らされました。それが私のこの教会を知った動機でしたが、私はいまでも信仰は薄いけれど、この教会はジョセフ・スミスによって回復された「まことの教会」であることだけは確信しています。そしてこの「まことの教会」を発見し得た幸せを心から悦び感謝していますので、この教会への道を教えて呉れた高橋仁吉兄弟にはこよなき謝意を持って居ります。

そこで私は、高橋仁吉兄弟への感謝の意をこめて、この五十年間、教会への道を忘れず、できる限り教会へ出席して、掟に従い、福音を学ぶことに心がけて居るのです。私の証は非常に弱い、けれども「末日聖徒イエス・キリスト教会」はまことの回復された教会であるという証は少しも変りません。そしてこの素晴しい教会を知った幸福を心から感謝しているのです。

一時的の感情で熱をあげ、一時的感情で教会を遠ざかるようなサタンのささやきに囚われないよう、へりくだった心で導きと恵みをお祈りいたします。

〃ただ御意を行う者のみ〃天国へ入るということを記憶すべきであります。

アーメン。

証詞

新潟　前田裕一

私はいま重苦しい感動に波うつ心の中で聖書の一節を考えています。

人はみな草のごとく
その栄華はみな草の花に似ている
草は枯れ、花は散る
しかし、主の言葉は、とこしえに残る

私は元来信仰心の起伏の烈しい人間であります。眼に見えざるものの手が私を常に正しい方向に導くため、その道を指し示して下さらなかったら、私は野良犬のようなものになっていたに違いありません。私は弱き僕に援けを惜しみなく与えて下さる主に感謝しています。

私は、三人の人たちの死の話に云い知れぬ衝撃を受けました。一人の方は新潟支部の大橋兄弟の弟さんであり、一人の方は東京西支部の新野姉妹、もう一人の方は私の住む市の隣接の市の市長さんであります。此の人達は長い患いの後ではなく、全く予期せぬ時に、傷ましくもその命を取り去られたのでした。私は自分のこれまでの生活に対する厳しい警鐘の音を聴くかの様に此の人達の死の話しに心うたれました。私は涯てしない明日が私の手中にあると夢想し続けていました。それは何という大きな誤りであったことでしょう。主のみ教えに真に従順であり、雄々しく信仰を貫く人に於てのみ明日は存在するのであって、私の様に「今日は未だ種々と大切な要件がある。併し、明日は誠命を守るだろう」などと好い加減な妥協に屈する者には如何なる明日もないのだということ、今日み言葉に耳傾けない者に光　充ちた明日は何時になっても

系図のページ

ホーム・テイーチング（二）

＊＊誰を訪問するか＊＊

ワード部のすべての家族がホーム・テイーチャーの訪問を受けるべきである。然しながらホーム・テイーチング計画の初期に於ては、既に熱意（援助の希望）を示した家族に対し集中すべきである。またワード部系図委員会実施部の定員会代表の努力に応じて要望された神権定員会会員の要求に対しても迅速に応じなければならない。若しもワード部の会長（系図委員会会長、以後同上）が各訪問すべき家庭の所在地を明示した地図を備えておくとホーム・テイーチャーの訪問を系統的によく任命する事が出来る。

ワード部会長は監督に逢って、神殿の推薦状をもらっている、ワード部会員のリストを受取っておくべきである。このリストと上述の地図により会長とその二人の補佐は一対の教師を任命するスケジュールを調整する。この手続きは推薦状をまだ受取り得ない人に神殿に行く事をすすめて当惑させるような事をなくする。このような人も教師の訪問を受けるべきで、彼等が家族の記録を作成し、系図の探求をなし推薦状を受取るように準備するように奨励されるべきである。

＊＊何を教えるか＊＊

すべての家族は先ず自身の直接の家族の記録を正しく完全に作成せねばならぬ。それから同様の家族の記録をすべての結婚した子孫に就て作成し最後にすべての先祖のすべての結婚に就て同様の記録を作る（これは系図上にある直系先祖である）すべての人の家族の記録は、正しくは、彼自身の家族の記録、すべての彼の子孫の記録及びすべての彼の先祖の記録から構成される。

次に各家族は彼等自身の系図を正しく編纂するように訓練されねばならぬ。標準様式に必要なすべての探求し得る事実を記録する。そして適当な参照番号により一表から他表に経続する。各異なった表に一方には夫他方には妻から始めるかまたは一表の冲一線に彼等の子供の一人の名を書いて始めることも出来る。後者の方法が家族の系図の記録を集めるのに、より大きな統一と効果があるので或人には有利である。

両親、祖父母、曾祖父母等の画または写真を得て肖像系図表を作成することは興味ある計画である。また各氏名或は写真に対し簡単な生涯の描写を書き入れれば更に興味をそそるであろう。

各家族会員をして印刷して備えられた様式に彼自身の個人の記録を作成する事を手始めとして系図に対する関心を喚起する事は理論的である。

各家族は個々の系図の探求に活動的であるよう或はこの目的の為に他人を雇うように奨励されるべきである。系図協会には訓練された探求家たちが居て、協会の記録に応え給う神の実在を私は明らかに証言します。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

「信仰と証詞欄つづき」

あり得ないことを私は悟らされました。

私は怒りの念の強い人間です。又、疑いの心の烈しい人間です。併しこのような私の祈りにさえも応え給う神の実在を私は明らかに証言します。

私は啓示に依って正しい道を語る予言者を持てる教会の会員であることに最大の生き甲斐を感じます。枯れる草、散る花のような一瞬の悦楽に見とれて、永遠の価値を持てる不朽の幸を見失う事はしたくありません。私は純粋のモルモンになりたいと思います。

庫に収められた豊富な書籍、マイクロ、フイールム、写本等から、また通信によって系図を遡り、家族の記録を求めてくれる。

ホーム・テイーチャーは訪問した家族に、彼等自身の親族の氏名を、神殿の仕事の為に神殿のファイルに備え置くように奨励すべきである。

神殿の推薦状を受取り得るすべての家族の会員は出来るだけ頻繁に神殿に出席するよう奨励さるべきである。八才を過ぎてバプテスマを受けた人はステーキ部よりの任命を通じて死人の為のバプテスマに参加する事が出来る。成人した会員でエンダウメントを受けた人は死者の為に代理のエンダウメントと結び固めを受ける事が出来る。結び固めに関連した特殊な問題は、常に貴方の神殿の管理会長の決断に任せなさい。

各家族がすべての子供が両親に結ばれたかまた各世代はその前の世代に結びつけられてあるかを確認する為、そのファミリ・レコードを如何に検査しチェックすべきかを示される事が特に大切である。

＊＊教育の段階＊＊

次はファミリ・レコードを整える為に教えるべき認められた方法の概略である。

一、ファミリ・レコードに対する関心を起させる
二、実存する記録を検査する
三、情報を備えられた様式に適正に整えることを援助する
四、手の届く範囲の系図作成を援助する
五、示された個々の関係を証明する
六、家族の記録を整えるよう会員に指令する

「註」、訪問を受けた人たちがこの賢明で熟達した、ホーム・テーチャーの指導の下に、彼等自身の記録を自分で作成するならより強い興味を生じ、より完全なものを作り得る

七、将来の子孫の為に、ファミリ・レコードが必要であることを説明する
八、記録は正確でなければならないことを強調する
九、会員に何処で彼等が儀式の資料及び其他必要な情報を得られるか通知する
一〇、すべての儀式を完成するように奨励する

＊＊記録をワード部書記とチェックする＊＊＊

訪問された或人たちは彼等の記録を完成する為に或日附が不足しているのを見出すであろう。祝福、バプテスマ、按手礼、聖任等の日附である。ホーム・テイーチャーはそのような脱落に註をしてワード部系図委員会の書記に報告せねばならない。其後定期的におそらく月に一度その会員をして各会員の為に個人の記録カードを保存しているワード部書記に面接させ更に必要な日附の為彼等の所有する記録と書記保存のカードとを対照させる。

此の対照の実施が過去に行われた、系図上統計上儀式上の情報を確証するものであるなら、それはワード部書記にもより多くの情報を提供し、彼の記録に収めることとなり、また書記をして対照する人に脱落せる事実を補充してあげられることとなる。

英国に於ける探求

ジョナサン・M・チェンバレン

「本文の著者により系図の仕事は、満足を覚え報いられる研究（探求）である事が確証された」

永年の間私は私の先祖たちの為、系図を探求し神殿の仕事をしたいと言う希望を持っていました。ユタ州カナブの私の日曜学校のクラスに於て私たちは此の問題に関する幾多の教課を持っていました。数年後私が或事故によってソルトレーク市の病院に入院した時、私の関心は更に高まったのでした。入院中に私はユタ州サンデイーより来ているバーニス・T・クレイトンと言う立派な婦人と知り合いとなりました。彼女は通信によって彼女の家族の系図を広く世界中から集めていました。

その年の十二月に私は北部中央合衆国伝道部に宣教師として召されました。一九五一年伝道から帰りますと、私は徴兵を受け空軍に入隊して、後にドイツに派遣されました。私は主が私の使命に向けて導いて居られることを知っていました。何となれば私の祝福師の祝福の中に「私が忠実である限り私は海外に福音を携えて母国に奉仕し安全に戻るであろう」との約束

が与えられて居たからであります。

二週間の休暇を私は郷里と私の双児の兄弟が伝道しているカナダに過して後、ニュージャー シーキルマ、キャンプに乗船届をしました。

私たちの船は一九五一年八月に北部ドイツのブレメルハーフェンに到着しました。其処から私たちは汽車でその国の南部辺境のバヴアリアン、アルプスの中のソンソーフェンと呼ばれる小さな村に行きました。私たちはわずか数日間ソンソーフェンの景色を楽しんでいた時に西ドイツの中央にあるウイスバーデンに汽車で行くように命令されました。

私たちがウイスバーデンに居る間に係の将校たちが私たちの任地を決定しました。彼等は皆を事務室に召集して先ずバスケットボールがよく出来るかどうか尋ねた。彼等のチームの為によく出来る人を求めていたのでした。司令部は人々をアイスランド、イングランド、ドイツ、フランス、ノルウエー、北アフリカの仏領モロッコ、其他数ケ国に送る事が出来、各人はその希望を聞かれたのでした。事務将校は私の経歴を見て、イングランドのロンドンの近郊のテディングトン・プンパークに行ったらよいだろうと結論しました。私は非常に感謝した。何となれば私は私の先祖がイングランドとスコットランドから来たことを知っていたからでありました。

私は南ロンドン支部で恰も郷里に居るような感じでありました。

他の責任と共に私は直ぐ新しくつくられた系図のクラスを教えるように頼まれました。

此の間に私はソルトレークに居る私の叔父のジョセフ・チェンバレインに系図の情報を知らせてくれるように手紙を書きました。彼は私の要求をば私たちの家族の系統の仕事をしている系図協会に働らいているスーザン・マーセイ姉妹に紹介しました。彼女はその作成せる探求の詳細を探求すべき場所並に氏名と共に私に送って来ました。

その後数週間私は系図者協会、ロンドン・チャウサーハウス図書館及び英国博物館を訪問しました。けれども、私の未経験の為に多くの時間を空費しました。

戸籍吏のチャプマン氏が最も援助を得られる人であることが判明したので私はその地方のシーヴェリ、ウインターボーン、其他の村々の記録を見せて欲しいと要求しました。

彼がそれ等を地下室から持って来た時、私は革紐でしばられ、束にまるめられた朽ちかかっている羊皮紙を見て驚きました。

その上には一べつすると古い英国様式の文字が走り書きしてあるように見えたが、書いた牧師によりラテン語或はフランス語が記されてありました。これ等のうち或記録の日附は十五世紀に遡っていました。チャップマン氏は私に只経験ある人のみがこの文書を判読することが出来ると告げました。けれども私はためして見たいと言いました。私はためして見ました。そしてためす時にへりくだって助けを祈りました。

才一回 月例地方部合同系図委員会

五月十八日、午後四時より五時半迄、東京中央支部に於て中央地方部の五支部（東京北、中央、西、南、横浜）の合同系図委員会が北支部系図委員会の福田会長司会の下に行われた。先ず渡部会長よりこの会の性格と目的に就て説明があった。それは系図のハンドブックに明記されてあり既に聖徒の道四月号の系図のページに掲載されたが茲々に再録する

ステーキ部系図委員会会長は

私は一頁か二頁を研究しました。そして終りの時間が来た時、わずかの言葉を判読することが出来ました。数週間後私は再び戻って来ました。今度は私が関心を持っていた名前即ち「クーク」、「ブロード」、「ホエル」、「バーチ」「ブルークス」及び「チェンバレン」を判読する事が出来ました。この日私はチェンバレン家の記録を判読することに成功しました。後に私はその同じ記録をチャウサー家に在った書物から獲得していた事を発見しました。ですから私は単に古い処をカヴアしたに過ぎなかったのでした。けれども私の判読が正しかった事を私は知りました。サリスバリの三度目の訪問はこれ以上の発見はありませんでした。（続く）

ステーキ部系図委員と共にワード部の報告を完全に調べて各ワード部のホーム・テイーチングプログラムの成功または失敗に寄与している原因をつきとめ、この調査に基づき毎月のステーキ部系図合同集会に於ける教育及び活動計画を作成せねばならない

次いで各支部会長より各支部系図委員会の活動状況の報告あり、今回は特に才一回なので各会長より各委員会委員の紹介があった。

北支部と中央支部は系図のテキスト「家督権の祝福」を使って既にレッスンを始めて居るようだがホーム・テイーチングはどこの支部もまだよく実施されていないようです。六、七、八の三ヶ月の聖徒の道に、系図のハンドブックからホーム・テイーチングの項目が掲載されますから、各支部系図委員会会員は之をよく読んで実施して載き度い。そしてその実施状況を合同集会で報告しまた一ヶ月間に各支部で作成された記録を提出して載き度い。その記録は本部を通じて直ちに系図協会に送られ、神殿の仕事に備えられることとなる。かくして始めて私たちは聖なる御業に参加している事となり限りなき恵みと祝福を受けうるのである。次に会員の系図の仕事を助ける目的で設置された本部系図図書室の拡充完備の為、資料の蒐集、外部系図機関との連絡接衝、各支部会員間の相互援助等に会員各位の協力方を要請しまた北支部福田長老にも特に此の方面の骨を折っていたゞくようにお願いした。

質問の時間に入ってから各参加会員より次のような熱心な質問があり大会の時に指導していたゞいたステイーブンス兄弟に主として回答していたゞいた。

問　記録提出後不明の箇処が判明した場合その部分のみを追報するか

答　判明せる部分をも記入した全体の記録を再製して送付し之と引換に不完全な前の記録は本人に返送される

問　年代を西歴にした場合陰歴と太陽歴の相違がわかるか

答　本部で既に調査済、表を作成する

問　夫が養子の場合の姓名

答　夫の名を最初、姓を次に最後に妻の姓を記す

問　他人の為に系図の仕事をしてよいか

答　頼まれた場合に限る

問　「同上」を使ってよいか

答　子供の欄の地名に限り許される

問　アバウト（約）を用いてよいか

答　死亡年月日には戦争または天災等の場合を除き使用出来ない。

問　死産の場合記録するか

答　名がつけられた場合その名の前に死産として名の後に姓をつける

名がなく只性別が判明せる時は、死産息子または死産娘として姓のみを書きそえる。性も判明しない時は死産子供として姓を書きそえる。

問　火葬の場合、火葬の日が埋葬年月日になるのかまたは墓地に納骨した日がなるのか

答　納骨した日と思われるが日本では骨を一年以上も寺に置く場合もありはっきりしないので目下本部より系図協会のベネット総書記に問合せ中

問　戦死の場合受領した骨箱に実際に本人の遺骨が入ってなくとも墓地に納骨した場合これを埋葬とするか

答　する

問　資料を入手した場所に記入する一定のフォームがあるか

答　別にない。それぞれの場合に応じ適当記入する

問　子供の結婚の欄の再婚の場合、丁度裏面の同じ欄に記入するか

答　註をつければよい、尚此の欄はわかる範囲で記入すればよいので絶対的なものではない。

今後毎月一回行われる此の会を記録提出と活動報告と、レッスン並に質疑応答の有意義な会に皆で一致協力して育てあげて行き度いと念願しています。

伝道部系図委員会会長　渡部正雄

質問　岡町支部坂本幾代姉妹からの質問にお答え致します。

答　幼児の祝福は片親のみ会員の場合も出来るか、従って個人の記録に記入されるか出来る。記入される。

若き末日聖徒の為の

モルモン経物語

エマ・マー・ピーターソン著＊渡部正雄訳

第二十八章

ノア王は殺された

（モーサヤ書第十九章）

ノア王国の民は、ノア王の悪行を憎み始めました。彼はその民に重税を課しその金をむだ使いしたのでまた民を怒らせました。多くの者が彼に対しつぶやき出し彼等のうち或者は新しい王を欲しました。

軍隊がアルマと其の民を森の中に探し求めて帰って来た時、民は彼等が弱く少数になっているのを知りました。この事は民をしてノア王に反抗して立上る勇気を与えました。彼等のうちにギデオンと云う強い人が居りました。

彼は王を殺す決心をしました。彼はつるぎを抜いて王を見に行きました。

彼は王を見つけると二人の間に戦いが始まりました。ギデオンは大変強く王を打まかし王が彼の手から逃れようとした時もう少しで王を殺そうとしました。町の中にニーファイ人がその敵レーマン人が攻めて来た時に見張りする為に高い塔が建ててありました。

ノアは此の塔に達しその頂上にとち登りました。追いかけて来たギデオンが丁度その塔に登りかけようとした時、王は遥か森の方からレーマン人が攻めて来るのを見つけました。

驚いた王は叫んで「ギデオンよ、我が生命を援け給え、ごらんよ、レーマン人が攻めて来る、彼等は我等を滅ぼし我が民を滅すであろう」と云いました。

王は自分自身を心配する程民の事を心配しませんでした。けれどもギデオンもレーマン人の攻撃の危険さを知っていましたので王の生命を許してやりました。

急いで降りて来た王はその民に町の向う側の森の中に逃げるように告げました。彼は真先に走って行きすべての男女、小さな小供達がそれに従いました。

レーマン人達はすぐ彼等を捕え殺し始めました。恐れた王はそこで早く走れる人は女や小供を置いて逃げ去るように告げました。王は悪い祭司達や或他の者達と一緒に女、小供を置いて走り逃げました。彼等は深い森の中にかくれる為出来るだけ早く走って行きました。

けれども、ここにその家族達を置き去りにしなかった多くの者も居ました、彼等は止むを得ない時は寧ろ家族と一緒に留って共に死のうとしました。

家族と共に留った人達はその中から最も美しい娘達を選んで前列に立たせレーマン人が来た時先ずその娘達を見て喜び彼等を殺すことがないように致しました。此の計画は彼等の望む通りになりました。レーマン人達が来た時、その娘さん達が好きになって彼等もまたその家族をも殺しませんでした。けれども彼等全部を虜にしてレーマン人の町ニーファイに連れて行きました。

虜になったニーファイ人達はレーマン人の王の前に行って許しを乞いました。王様は彼等が若しノア王を見つけて連れて来るなら自分たちの土地や家に帰ってもよいと言いました。また彼等はその全財産の半分と、将来数年にわたりその収入の半分をも王に納めることに同意せねばなりませんでした。これは大変な重荷でありましたがニーファイ人達はこれに同意致しました。

これ等の虜の中にノア王の息子の一人が居りました。彼は善良な若者でその名をリムハイと呼びま

した。彼は虜となったニーフアイ人達を治め彼等が金、銀、穀物、家畜その他の財産等の半分をレーマン人に納めるかどうか監視するように選ばれました。

リムハイは彼の父ノアがレーマン人達によって殺されるのを望みませんでしたが、ノアが悪い人間であることをも知って居りました。

これを知ったギデオンはノアを探す為にひそかに人々を森の中に送りました。彼等は王が妻子共を置いて逃げよと言った時、王に従って逃げた人々を見つけました。これ等の人々は自分のなした事を後悔し彼等の家族達がレーマン人等に捕えられてニーフアイの地に戻って行った事を知り家族達の処に帰りたいと望みました。ノア王は行く事を禁じましたので彼等は大変怒って王を縛ってたき火を造って焼殺してしまいました。この事はアビナダイが王は予言者を殺したと同様の方法で殺されるであろうと言った予言が成就されたわけであります。

これ等の怒った人々は悪い祭司達をも殺そうとしましたが彼等は森の中に逃げて行ってしまいました。人々がその家族たちに逢う為ニーフアイの地に向って出発しようと準備していた時、ギデオンの一団が来ていろいろ起った事情を語り彼等が若しその財産の半分を納めるならレーマン人は彼等の帰ることを許すであろうと告げました。

レーマン人達はニーフアイ人達と若し彼等が毎年貢物を納めるなら殺さないと云う約束をしました。リムハイ王はこれに同意してその民は全収入の半分をレーマン人達に納める為一生懸命になって働らきました。このようにして世の中に平和が訪れました。

レーマン人達はニーフアイ人達が逃亡しないかと恐れて彼等の町の廻りに番人を置きました。けれどもニーフアイ人達はそこに留り二ケ年の間彼等の間に何の問題もありませんでした。

第二十九章

レーマン人の娘達がさらわれる

（モーサヤ書第二十章）

ノアの悪い祭司等は続けて荒野に住んで居りました。彼等はニーフアイの地の彼等の妻子の許に戻る事を恥じたのでありました。彼等はまた戻って行けばニーフアイ人等に殺されるのではないかと恐

レーマン人の娘達、ノアの悪祭司にさらわれる

れたのであります。彼等はノア王が殺された時命からがら逃げのびたのです。どこにも行く処がなくて彼等は森の奥深くかくれたのでありました。附近にシエムロンと云う土地があり、其処にレーマン人の娘がよく遊びに来ました。或日彼女たち二十四名がそこで踊って居りました。ノアの祭司達は彼女等を見て自分の妻にしたいと思いました。彼等はそのかくれ場の林の中からとび出して来て彼女等を捕え森深く連れこんで行きました。

レーマン人達は、彼等の娘達が居なくなったのを知って彼等の奴隷であるリムハイの民が彼女等を取って行ったのだと思って大変怒りました。

怒り狂ったレーマン人の王はリムハイの町に軍隊を派遣しました。リムハイは高い塔から彼等の攻めて来るのを見て急いで彼の兵士達を森の中に導き、レーマン人達を急襲しようと致しました。レーマン人達が近付いた時、リムハイとその兵士達は、彼等を急襲して多くの者を殺しました。戦いは烈しくすべての人がやばん的に戦いました。

レーマン人達はニーファイ人達の約二倍近く居りましたがニーファイ人達はよくレーマン人達を撃退致しました。彼等は彼等が自分達の家や妻子達の為に戦い戦場に於て勝たなければ皆殺されてしまうであろう事を知って居りました。この為に彼等は前にもまして一生懸命戦ったのであります。

レーマン人の王は重傷して戦場に於て戦死者の間にたおれてしまいました。彼の部下達は彼がまだ生きていることを知らずに彼をそこに置きざりにしました。けれどもニーファイ人達は彼を見つけて傷口にほうたいをし介抱しましたので彼は死にませんでした。そこで彼等は彼を自分達の王、リムハイの処に連れて行きました。彼等は、「ここにレーマン人の王が居ます。彼は負傷して彼等戦死者の間にたおれて居りました。そして彼等は彼を置きざりにして行ったのです。今私等が彼を貴方の前に連れて来ましたが今ここで殺してしまいましょう」と云いました。

けれどもリムハイは、「お前等は彼を殺してはいけない、私はよく彼を見たいからもっと近く連れて来い」と云いました。

彼等が近くへ連れて来た時、リムハイは彼に問い「何の理由でお前は我が民に戦を挑んで来たのか？見よ我が民は私がお前となした誓約を守って居る。然るに何故お前は我が民になした誓約を破るのだ？」と云いました。

そこでレーマン人の王はリムハイに向い「私はお前の民が我が民の娘達を奪って行ったので誓約を破ったのである。故に私は怒って我が民を遣わしお前の民に戦いを挑んだのだ」と云いました。

リムハイは娘達のさらわれた事に就ては何も知りませんでした。そこで彼はレーマン人の王に「私は誰がそのような事をしたか我が民のうちを調べるであろう。そして若しした者が見つかったら之を罰しよう」と云いました。

ギデオンは王の隊長でありました。彼は娘達がさらわれた事を聞いた時王の前に行って「どうぞこれ等の人々を責め調べないで下さい。貴方はこの人々が打滅ぼそうと探し求めている貴方のお父さんの悪い祭司共を憶えて居りませんか？　彼等は荒野に居るのではありませんか？　そしてレーマン人の娘達をさらったのは彼等ではありませんでしょうか？」と云いました。

ギデオンはそこでリムハイに彼が今語った事をレーマン人の王に告げて戦いを中止させるように云いました。彼はリムハイにレーマン人達は既に新しい軍隊を組織してもう一度此の町を攻めに来つつあることを告げました。

彼は、彼等は更に多くの軍隊を以て攻めて来た事を告げ更につけ加えて「我が軍は少勢であります。王が何とか彼等をなだめなければ我々は危い」と申しました。

彼は彼等が悪より遠ざからなければ滅ぼされるであろうと云ったアビナダイの言葉を王に思出させ且言いました。「我々がなした誓約を守って王をなだめよう。我々は生命を失うよりも奴隷の境涯に在る方がよい。だからそんなに多くの血を流すことを止めよう」と、リムハイはギデオンの言った事を残らずレーマン人の王に告げました。彼はレーマン人の王に、彼自身の悪い父親ノア王の事や荒野に逃去ったその祭司等のことを告げその祭司等がレーマン人の娘達をさらった事を非難致しました。

レーマン人の王はリムハイの告げた事を信じました。そして「で

は一緒に武器を持たずに我が民の処に行こう、私は我が民がお前の民を殺さないことを誓う」と云いました。

レーマン人の王は町を出てニーファイ人を攻めて来る彼の軍隊に逢いました。彼は彼等を止め、ニーファイ人の為に彼等に頼みました。リムハイと彼の民もその武器を後に残し置いて出て彼等を迎えました。これを見た時レーマン人達は満足してその王を伴って自分達の国に帰って行き再び平和が訪れました。

けれどもリムハイは悪い祭司達を見つけ戦争を起させた罰として彼等をこらしめようとして兵士を派遣しました。

兵士達はどこを探してもノア王の悪い祭司達も、その妻であるレーマン人の娘達をも探し出すことが出来ませんでした。

リムハイの民はレーマン人との間になされた平和の約束にも拘わらずレーマン人達が攻撃しては来ないかと大変恐れました。彼等はどれ程生きのびれるか、何時逃げねばならぬかわかりませんでした。

才三十章

束縛は更に悪化する

（モーサヤ書才二十一章）

リムハイの民は、レーマン人達を反撃し、戦場に於て死者の間に見つけた彼等の王の生命を救ってやったとは言え平和を保つ事が出来ませんでした。

戦争の為レーマン人は前よりももっとニーファイ人を憎むようになりました。彼等はニーファイ人達を滅ぼそうと欲しましたが彼等の王がリムハイとニーファイ人と戦はないことを約束したので戦いを始めませんでした。

けれども彼等は実際に戦うことなくして出来るだけニーファイ人を苦しめようと決議しました。彼等はニーファイ人が働いている時むち打ちました。彼等はニーファイ人等の背に重荷を負わせて役牛か馬車馬のようにかり立てました。すべてこれらのことはアビナダイの予言の成就でありニーファイ人達の悪化した当然の報いであったのでした。

ニーファイ人達の苦しみは甚だしく彼等は互にぶつぶつ言い始め何とかして彼等の敵を打倒したいと考えました。或者はレーマン人に対し戦いを挑み彼等を滅ぼしてしまおうと望みました。リムハイはそれは賢いやり方ではないと知って居りました。彼は後日また救われる機会が来る迄平和に働くよう彼等に勧告しました。けれども彼等は戦うことを許して下さいと続けて彼の許に頼みに行きました。遂に彼は彼等に好きなようにするように言いました。

彼等は彼等の境界内に入って来たレーマン人を攻撃し彼等を追出してしまおうと決意しました。けれどもレーマン人の方が彼等よりも強く彼等を打破り多くの者を殺しました。傷つかなかった人々は援けを求めて町の中に逃れました。そこで死者の為に大いなる悲しみがありました。未亡人達は此の戦争で生命を失った夫の為に泣きました。小供達は父親を呼び叫び兄弟等の為に悲しみました。

未亡人達は、何時迄も泣きました。彼等に同情した人々はレーマン人達に対して大変怒りました。彼等は今度こそ勝てると思ってもう一度戦おうとしました。彼等は武装して彼等の敵に向って進撃しました。けれどもひどく打破られてしまいました。今はより多くの兵隊が殺され、より多くの未亡人や孤児が出来ました。

ふんがいした彼等はまたもやレーマン人を攻撃しましたが三度とも同じ結果に終りました。より多くの人が殺され、彼等の家族は孤児となりました。

今やニーファイ人達はやけくそになってしまいました。

彼等は救われる道がないと感じました。彼等のかせは前よりも重くなり彼等は更に悲しみ続けました。

このような状態に於て始めて彼等の心は主なる神さまに向い始めました。彼等は自分等の罪を思出して悔い改め始めました。彼等は若し彼等が神に仕えるならば地に栄え若し神に仕えなければ束縛の身となるであろうと言った予言者の約束を思出しました。

彼等は深く悔い改めて主なる神さまに祈り始めました。彼等が予言者の声を聞くのが遅かったので主なる神さまも彼等の祈りを聞くのが遅くなりました。けれども彼等が続けて悔い改め且祈って居ましたので主なる神さまは彼等に聞きレーマン人達の心を柔げ始めました。ニーファイ人達をその束縛より解くことはまだ主なる神さまの目的ではありませんでしたが

日本伝道部の回顧

奈良富士哉

七、宣教師が再来朝するということをきいて

再び宣教師が私達のために派遣されることを信じておりました。かかる状態にありましたやさき戦争は拡大され遂に大平洋戦争がぼっ発しましたことは、私達にとってまことに遺憾至極のことでありまして、他のキリスト教は勿論、私達末日聖徒イエス・キリスト教会会員にとって暗黒時代であったことは過言ではないと思います。しかしながら一九四五年八月十五日、日本が敗戦し、戦い終って再び本教会の宣教師が来朝されたることはまことに私達にとって此上ない幸福であったことは申し上げる迄もありません。

一九二四年八月閉鎖されましてから一九四七年のその期間の一、二、三年間は、私達会員はお互いに信仰にもえて相当の希望を持っておりましたが、国家的戦争が長期化するに及び信仰も漸次ぐらついて来たことは否定出来ない事実でした。御承知のように、私はメルケゼデク神権の保持者として尊い使命と権能の鍵を与えられましたにも拘らず、これを完全に遂行出来なかったことはまことに遺憾にたゞ神に赦しを乞うものであります。しかし私が満洲の地におきましても末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であり、生ける真の神を信じその証しは持ち続けておりました。従って本教会の再開を懇願しつつあったことも事実で、

八、伝道部再開の報を聞いた時の感想

当教会が閉鎖されました当時、各地に散在せる会員の悲歎は申し上げる迄もなく大きなショックを受けたのですが、国際情勢の如何にかかわらず日本伝道部が日本国内になくなったと云うことは、誠に精神的にさびしかったことでし

（モルモン経物語、続き）

主なる神さまはレーマン人達の心を柔げてニーファイ人達の重荷を軽くしました。主なる神さまは、ニーファイ人達の穀物が増産するよう、また家畜が増えるよう彼等の野畑を祝福しました。

多くの男子が戦場で戦死したので男子よりも女子の方が多くなりました。これを見たリムハイ王はすべての人はその穀物の一部をこれ等未亡人の家族に彼等が飢えることのないように分け与えよと命令致しました。

リムハイの民は未だ曽てなかった程よく結合しました。彼等は自分達自身をレーマン人より守る為にお互に援け合い共に働かねばならぬと感じました。そこで彼等はその土地や家畜に対しよりよく管理することが出来ました。

リムハイ王は、町の周りに番人を置いてレーマン人の急襲より彼の民を守らせました。彼はまた町の外に出る時は護衛兵を伴ってレーマン人の捕虜とならないように用心しました。

町は壁をめぐらし番人の立っている門を除いて何処からも誰も出入する事が出来ませんでした。この城壁の外に畑や牧草地がありました。

ニーファイ人達は彼等の穀物の若干が盗まれて居るのに気付き始めました。ノアの悪い祭司達がそれを盗んで行ったのです。

リムハイは兵隊を派遣して之等の祭司を捕えて盗みを止めさせ、またレーマン人の娘達をさらった罪の故に彼等を罰しようとしましたが、彼等は祭司達を探す事が出来ませんでした。

リムハイは尚も、何等かの解放が来るものと待ち望んで居りました。彼は彼の民がゼラヘムラの地より来た事を憶えて居り彼は其処に戻ってニーファイ人の本国の人々の保護の許に生活を楽しみたいと望みました。彼はゼラヘムラ市を探してその援けを乞う為に探偵を派遣しました。けれどもどの探偵も見つけることが出来ず戻って来てリムハイを失望させました。

た。私達は再開を希望しながらアメリカ本部との連絡を緊密にして参りましたが、国際情況は刻々に暗い方向にあり、余りかんばしくなく進行しつつ一般的にクリスチヤンに対する迫害はジリジリとせまりつつありましたことは否定出来ない事実でした。従って思想的にも混乱の時代が現出した為めに、私達の活動も勿論思うように進歩しなかったことは、神に対して不信のそしりを免がれることは出来ないと思いました。それに戦争また戦争と云う具合に平和の時が与えられず、私達にとっては永年暗黒時代が続いたのでしたが、日本伝道部は事実上日本では閉鎖されても、ハワイに置かれたようで本質的には大したことでなく、全世界における当教会の発展は其の間誠に素晴らしく進展しつつあったことを知ったことは何ともたとえようもない喜びでした。私達にとって勿論二十数年間の空白があったにしても、私達会員は決して精神的即ち信仰的にチリヂリバラバラでなかったことは言う迄もありません。才二次欧州大戦により極東においては太平洋戦争が終戦となり、日本の敗戦が決定的になりましたとき、私達は再び当教会伝道部が開かれるのではないかと云うことを思い且つ信じていたことは、永い空白時代においても教会に対する信仰が決して動揺しなかったためと思います（一部の会員は落伍したでしょうが……それも住所不明者が大半です）従って日本伝道部再開の報が、当時日本に進駐された日本人二世の軍人の方々から約三年間つぎつぎにそうした情報のありましたことは何とも言えない大なる感激であり神の大いなるみ恵みの賜であることを知りました。各地に散在せる会員達の喜びも一入でありました。それと同時に経済的に非常に困っていた私達に対して、相当の援助物資を惜しまなかった教会幹部の方々に今さらながら真心より感謝の意を表する次才であります。私個人にとってこのことについては終生忘れることの出来ない感激であり、生ける真の神に感謝を捧げるものであります。何となればこのことによって現在北部極東伝道部にとって動かすべからざる偉大なる礎石となることを疑うことが出来ないからです。

私達のように大いなる神の恩愛を永らく賜わりつつあるものは再開后の会員達の臆測することの出来ない奥深いものがあったことを感謝される次才であります。

九、東京及び日本における教会の発達状況

本問題については北部極東伝道部本部から回答されることが至当と思われますのでここではぶきました。

一〇、奈良姉妹が証を得てからバプテスマを受けるまで

奈良姉妹は一九二四年四月六日私（奈良兄弟）とロバートソン伝道部長により教会で結婚式をする以前本教会の求道者として集会に出席して居りましたが、まもなく一九二四年八月日本伝道部が閉鎖される迄に会員になる機会がありませんでした。しかし教理に関しては全面的に肯定して居りました関係で閉鎖后再開されるまでの永い年月本教会に対する強い信仰を持っておりました。暇さえあれば近所の子供達を相手に私（奈良兄弟）の自宅で子供の日曜学校を開いておりますとき又私達信者が再開に努力しておりますとき等よき協力者としてつくしてくれたことを証し致します。勿論私達は何時かは日本伝道部の再開を期待していました。その永い間失望するこ

左の写真は教会再開後、最初の伝道部長クリソード長老によって古い信者が本部で二十数年ぶりに集った時の記念撮影（一九四八年五月）

ニュース欄

御紹介

名古屋 柳田聰子

メルヴインE・ニューボルト兄弟一家を御紹介致します。ソルトレーク市に住む方達で、質素な生活をされて居られるようですが、この方は世界の各地に住む未知の兄弟姉妹達の為にインプルーヴメント・エラ誌を贈って、この地上に神の王国を建設する努力をつづけて居られます。

エラ誌発行所に御連絡をお願いしてこの方達の存在と行いを知りました。そして見えない蔭の処に愛の行いと努力がある事を知って感激致しましたので王国建設に黙々と働くこのような兄弟姉妹の一家がありますことを御紹介させて頂きました。

住所は左の通り

1289 Eighth Ave
Salt Lake City,
Utah

ニューボルト兄弟とその家族

松本支部春季大会

五月三日、四日、松本支部春季大会が松本市安原公民館にて行われ、中央地方部長のシモンズ長老と、遠藤長老がはるばる東京から来松されました。これより先き三日朝九時にアズサ川の清流にてバプテスマの儀式が行われ八人の会員と三人の求道者とに見守られ百瀬姉妹のお話等があって坂本兄弟が生れました私達は坂本兄弟の上に幸あるようにお祈り致しました。四日朝

（左は松本支部大会）

（日本伝道部の回顧続き）

とも度々でしたが戦争、戦争で日本国内はまことに騒然としていたからです。

一九四五年才二次大戦が終戦になりましてから本教会が、日本伝道部として再び開かれる迄、私達は東京に於いて少数の信者、求道者、（奈良姉妹を含む）と共に当時アメリカ進駐軍の信者方の援助により、ささやかな集会を毎日曜日開いて居りました。その間本教会に対する奈良姉妹の証しはまことに確固たるものがあったと思われます。

一九四八年三月再開とともに当時のクリソード伝道部長により四月六日バプテスマを受け直ちに按手礼によって完全に本教会の会員になることが出来たのです。

従って本教会を知ってから二四年待ったことになります。

＊＊＊＊＊　＊＊＊＊＊

九時より十時まで神權会、扶助協会が同時に開かれ、十時半より十二時半まで一般大会が大変有意義に開かれたことを感謝致しております。

十二時半から約一時間、扶助協会のお骨折で持寄食堂が開かれ三十人の人々は楽しい昼食に舌づつみを打ち、午后は聖餐式、証会、夜に入ってファイヤサイドと会が続きました。

なお松本支部はオルガン、プレイヤー、イス（四〇）、アンプ・レコード、ストーブ等教会に必要なものを買入れました事も感謝しております。

その前、十一日の母の日には、お母様方や、将来のお母様方にカーネーションが贈られたこととてらし合せて、今月は扶助協会の存在意義をはっきりと知った。大いなる月であったといえるでしょう。

（横浜支部）

延びゆく横浜扶助協会

建てよう会とミシン贈呈式

五月初旬の連休オ一日目は、三日（土）で、扶助協会の作ったのりまきといなりずしを主体にして、恒例の建てよう会が開かれた。メンバーの中には、なかなかどうして、一芸に秀でた方が多い。一々言うのも、もどかしい位。この時に宣教師のグリーフイン長老が突然岡町支部に転任されることを知った。何時もこういう具合だから、みんなびっくりしてしまいます。その後任には、アンダーセン長老が来られました。

十四日午后には、在横浜米軍扶助協会から支部扶助協会にミシンを贈られ、その感謝のパーティが催されました。永い間の望みであった、立派なミシンが、こんなにも早く温かい隣人愛によって得られたことに、一同心から感謝しました。この写真は、その時の記念写真です。

二十五日はいつもの聖餐式のあと、扶助協会による特別プログラムが行われた。地味な存在といわれがちな扶助協会が、出席した会員及び求道者にはっきりと認識されたということが、後での皆の感想でした。

ミシン贈呈式

子供日曜学校発足

母の日、バック地方部長を迎え開かれた母の日は永井姉妹による〝母さん〟の歌があり、一人一人の胸にお母さんへの感謝と尊敬の心を込めた、カーネーションをつけ楽しいプログラムでした。

支部会員廿七名、五月六日のMIAから出席されていた道場鈴子姉妹は東京支部より新たに当支部所属会員として登録されました。これで当支部会員数は二十七名です。

映画観賞、当教会の幹部達も資料を提供したと云う、映画〝十戒〟を在阪支部合同で観賞しました。パラマウント社の好意と、植村兄弟の努力のかいあって教会堂建設資金のために二千百六十円の収入がありました。（五月二十三日）

子供日曜学校発足、支部発足以来、半年にして、六月一日にようやく、子供日曜学校の発足を見ることが出来ました。（出席児童二十一名）組織は次の通りです。

主任　道場鈴子
教師　和多谷幸代
教師　広瀬孝子

音楽指揮者　日高千鶴子
書記　片山京子

系図委員会設置、待望の系図委員会が当支部にも設置されることとなり、会長には植村茂夫兄弟が召されました。六月一日から系図に関する研究の才一歩を踏み出しました。（西宮支部）田口生

二組の結婚式

ハイキング、四月二十九日の祝日を利用しMIA主催で洞爺湖温泉へ行く、当日は小春日和の良い天気で途中美しい湖水の景色を眺めまた天然記念物の昭和新山を観賞しながら元気に目的地に到着、そこで中食をいただき、后写真を撮ったり、見学したりして一日を楽しく送る。参加者十五名。

結婚式、五月三日当支部で始めて二組の結婚式が行われました。その一は当支部の小野辛兄弟と吉川姉妹　でエリス地方部長の祝福により教会で行わる。他の一組は札幌支部藤田兄弟と室蘭支部大場姉妹でエリス地方部長の祝福により行わる。続いて披露宴があり長老会員の方々のコーラス日本舞踊などがあり和やかに前途を祝いました。出席者四十名。二組の新しいモルモンの家族に祝福がありますようにとお祈り致します。

地方部大会、五月十七日、十八日の両日札幌での地方部大会に出席してアンドラス伝道部長さんをはじめ多くの会員のかたのすばらしいお話と証詞を聞き私達の信仰と証詞を強めることが出来たことを感謝致しております。出席者十八名。

会員の急死、五月十九日室蘭支部日曜学校会長藤木義憲兄弟が自動車事故により死亡されました。会員一同彼の死亡をいたむ、なお家族の方々の御理解によりエリス地方部長を迎えて厳粛なうちに多くの会員も参列してしのぶ会が行われました。また死体は土葬することが出来心から感謝しています。

パーティ、五月二十四日夜六時三十分から予算獲得パーティ開く。まずレコードコンサート、（クラシック、ポピュラー）続いてフルーツバスケットが行わる。お菓子とキャンデイを食べながら楽しく春の夕べの一時を過ごしました。出席者二十名。

（室蘭支部）　川崎英三

山形支部の大会

四月二十六、二十七の両日、新後閑地方部長さんをお迎えして、教義と聖約の才四章をテーマとして山形支部大会を開きました。

聖餐式が開かれる頃から、同じ場所の労働会館の階下からダンスパーティのブラスバンドがやかましくひゞいて来て、私達は聖餐式を行う事が出来ませんでしたのでそれを夜に移し、証詞会に致しました。始めの間やかましいブラスバンドに対して不快の念を持ちましたが、そのような一般の人々と末日聖徒とを比較して考えます時に、我が身と心に与えられて居ります幸福、神の福音を知る事、神の導きと守りを知ることの出来ます事を心から感謝しないでは居られませんでした。本当に、一日も早く世のすべての人が真の神の福音を知る事の出来ます様にとお祈り致します。

夜静かなミッションホームに神を讃美する人々のみ集り、聖餐式を開く事が出来、私達はしあわせでございました。

神のみたまにみたされ、うららかな春の天候にもめぐまれて本当によい会でございましたが午后の聖二十九日、村山市にある東沢公園にお花見をかねてピクニックを致しました。出席者は四十二名。

ボートをこいだり、午后はスポーツに興じたり、何時までもこのまま遊んで居たいような気持で名残惜しく、一時間余も汽車に乗らないと山形に帰れないのでしたが夕方まで楽しく一日を過しました。

五月三日には、青木貞太郎さん中山健介兄弟の二人のお姉様、千鶴子さん、紀子さん、原田けい子さん、鬼沢わか子さん、御寺道子さん、鈴木ちよさんの七人がバプテスマを受けられました。

八、九、十の三日間は、山形市恒例の薬師堂のお祭りでしたので支部予算のために、売店を開きました。兄弟姉妹求道者の人々がよく協力して下さいましたので他にも店はありましたが私達の店はいつもにぎやかでよく売れました。

此の所私達の支部にとって特別の行事が種々ありましたがいつも神様は私達に大きなお恵みを下さいまして私達を守り助けて下さいました。そして私達一人一人の証を強める機会を与えて下さいました。

草壁園子

秋元彬江ピアノ演奏会

―東京・群馬―

岡町支部の会員で、当年とって十六才、高校二年生の元気はつらつとした秋元よし江姉妹は、子供の日曜学校の一教師であり、支部のホープである。この一末日聖徒が関西楽壇では非常に有名であり、各批評家の絶讃をあびているときかされておどろく人もあるかも知れない。

実際に彼女には、「大阪に生れ昭和廿三年母よりピアノを習い始めた小学校二年から東貞一氏に師事す。

昭和廿七年廿八年学生音楽コンクールに入賞。

昭和卅年卅一年の二回朝比奈隆氏指揮にて関西交響楽団と協奏曲演。

昭和卅二年大阪ガスビルにて独奏会を開き好評を博した。

同年六月NTBホールに於ける批評家推選ジョイント リサイタルに出演の他NHK、NJB、ABCラヂオ神戸大阪テレビなどに出演活躍している」と云うかがやかしい楽歴がある。

このすばらしいタレントをぜひ奉仕して欲しいという東京及群馬支部の希望により、大阪よりはるばる上京。

五月の五日、東京千代田公会堂、五月七日群馬会館でピアノ演奏会を開き好評を博した。

演奏会にはお母さんの富佐姉妹とピアノ教師の東貞一氏も附添って上京、この演奏会の為に全面的に協力をおしまず、東京と群馬の会員達を感激させた。

この演奏会は東京及び群馬六支部の教会堂建築資金や支部予算、福祉資金の為に多大の利益を収める事が出来た。

この演奏会の演奏面に於ける批

左より、東氏・よし江・富佐両姉妹

伝道本部だより

（六月一日現在）

宣教師移動

ローズリング　長老（東京中央）
ブラック　長老（東京西）
シン　長老（東京南）
ライト　長老（岡山支部長）
シモンズ　長老（甲府支部長）
テル　長老（中央地方部長）
ブラウン　長老（韓国）
アイヂック　姉妹（札幌）
村　姉妹（仙台）
佐々木　姉妹（福岡）
ハグ　姉妹（広島）
　　姉妹（札幌）

解任

アーリーン・テルコ・アガミネ姉妹
ジョイ・M・オルスン姉妹

誕生と祝福

成田　ちさと（父・成田好和、母・多聞さち子）四月二日誕生、五月廿四日成田兄弟により祝福さる。（名古屋支部）

今井　一美（父・今井一男、母・金子美保子）一九五七年十二月十九日誕生、四月六日今井兄弟により祝福さる。（東京中央支部）

末松　誠（父・末松芳男、母・大川みち子）一九五七年十一月三十日誕生、四月六日ノーマン・シャムウエイ長老により祝福さる。（東京中央支部）

神権授与

月日	氏名	神権	支部
五一八	安田卓造	長老	旭川
五一四	田内静男	執事	松本
五一五	坂本弘	祭司	岡町
五一五	富岡こう	執事	岡町
五一一	上野山健次郎	祭司	岡町
五一五	川口ひろすけ	祭司	岡町
五一一	坂本よしあき	執事	岡町
四二〇	加納芳一	執事	岡町
四二二	丹羽三吾	執事	東京北
五四	石谷忠三	教師	山形
四二七	渡部正二	教師	横浜
四二七	倉沢一	教師	横浜

この外韓国の支部にて神権を授与されて執事四名、教師三名、長老一名聖任された。

バプテスマ

米沢幸彦　旭川支部
木水昭一　福岡支部
藤貞己　福岡支部
八尋静江　福岡支部
阿久津けい子　群馬支部
鶴淵和子　群馬支部
和田豪　松本支部
坂本のりふみ　松本支部
森本洋子　名古屋支部
本島康弘　名古屋支部
神本正子　名古屋支部
近藤治男　名古屋支部
徳吉みづ枝　名古屋支部
大須賀俊子　西宮支部
中太満　岡町支部
長洲正恭　岡町支部
佐野喜三郎　岡町支部
中島美智子　岡町支部
加藤倫子　岡山支部
加藤正恵　東京中央支部
中村勇幸　東京中央支部
佐藤譲二　東京中央支部
竹内俊子　東京中央支部
日高二郎　東京北支部
小笠原かつこ　東京南支部
小浜屋子　東京南支部
青木貞太郎　三宮支部
鈴木チヨ　柳井支部
原田恵子　柳井支部
中山千鶴子　柳井支部
中山紀子　柳井支部
鬼沢幼子　柳井支部
三井寺道子　柳井支部
荒巻敏子　横浜支部
鈴木隆芳　横浜支部
斎藤とめ子　横浜支部
田中恵美子　横浜支部
村山栄子　普天間支部
宮名腰文子　普天間支部
津嘉山秀子　普天間支部
大湾トミ子　普天間支部

この外韓国にて四名バプテスマを受く。

評は、批評家の云っているように「バッハにはじまりラヴェルに終るプロにそれぞれの作曲家の精神を敏感に反応する鋭い感受性を示した微妙なニュアンスとリズムの多様な変化を鮮やかに表現しまじりけのない音楽の本質的なものを引出す希有の才能が感じられた」という事になるのであろうか。

七月には岡町支部の主催で、大演奏会も開かれる。これにより彼女の名声は又々増し加えられる。彼女の

「神様の為に少しでもお役に立つ事ができれば幸いです」という言葉の失われぬかぎり、彼女の前途は、神にみ守られた、輝かしいものである。

五月の岡町支部

役員新任、片山富夫兄弟が才一副支部長に聖任さる

転任、アンダーセン長老は横浜支部へ転任

ピックニック、五月五日、子供の日に服部緑地公園で春季運動会の催し、参加者五十数名、誠に楽しい一日でした。

女児誕生、十一日、阪本弘兄弟と阪本晴子姉妹に才一女児出生、純子と名附けられた。

五月十八日、扶助協会役員新任、

北岡みづほ　（扶助協会会長）
秋元富佐（扶助協会才一副会長）
富山ヨネ（扶助協会才二副会長）

が聖任された。　阪本幾代

詩

「行く道は唯一つ」

丸山周兵

行く道は唯一つ
この道を、わき目を、ふらずに
進み行かん

行く道は唯一つ
その道は　光の道
示す道を　我行かん

行く道は唯一つ
その道は　せまく　行きがたし
しかし我行かん

行く道は唯一つ
この道こそ　誠の道
命かけて　まもり行かん

行く道は唯一つ
誰が　邪魔しょうと
貫きて行かん
我の道を

行く道は唯一つ
その道は　永遠の　道
幸をもとめて　我行かん

行く道は唯一つ
永遠の生命を　得る為に
神の教えを　まもり行かん

（一九五八年四月）

「いちよう」

横浜　佐藤静子

風が吹いて来た
窓の向うの
いちょうが風に吹かれて
楽しそうにおどっている
私は「さびしい」のよ
こんなに吹かれて
あそこにたゝきつけられるの
一人ごとのように
つぶやきながらおどっている
ほら
　あの人も落ちていくの
　ね、わかるでしょう
だから何もかも忘れて
楽しくおどるの
ほら　風さんが
早くおどりなさいと云っている

短歌

撫然

東京北　高木とみごろう

山彦を聞きつつ葡萄ちぎりたる
かのふるさとの藪かこいしも

用もなくて寝床にたおれ天井の
紙の色など見てくらしける

故さとを十とせこの方たずねざる
めしいの女いかになりしか

気付かずに過ぎ来しわれの右足は
三とせこの方みじかくなりぬ

馬鹿アーッと誰か頭上でどなるあり
仰ぎ見れども誰も居らざる

うなずきつわれ馬鹿なりと思いける
二十七才の夏もふかみゆ

日曜を安ろうすべに遠ざかり
ひとりしいのる部屋の淋しさ

―在米時代の旧作より―

俳句

春季雑詠

東京南　渡辺八重子

思うことなく春宵の橋にあり
セル着るや山の湯町に住みなれて
野茨の香のほのかなり五月闇
朴芽吹き雨の日多くなりにけり
くれ残る湖が遠くに桐の花
ふるさとは屋根に石置き桐の花
白木瓜やはたちの愁いなしとせず

―「牡丹」より―

夕顔やこゝまでとゞく廚の灯
無花果のおおいかぶさる廚かな
踏切をこせばふるさと猫柳
しみじみと今日のひゝなを飾りけり
紅梅の下に明日嫁く姉とあり
愁いふかしからたちの花白ければ
お彌彦はうすむらさきよ春隣り

―「まほぎ」より―

ソルト・レーク盆地に入る

1847年に
盆地に立つて
いた一本の木

編集言

◎マッケイ大管長もアンドラス伝道部長も、ともにそのメッセージにおいて『この月はブリガム・ヤング大管長に引率された開拓者たちが、千マイルの苦難の旅を終えてソルトレーク、キヤニオンにたどり着いた尊い記念すべき月である』と言われている。

◎七月廿四日はユタ州の祝祭日で全州民が挙げてこの日を休日とし、色々な催し物などで開拓者たちに感謝の意を表している。

◎私たちもこの偉大にして信仰と忍耐の強い開拓者たちの事蹟をあらためて想起し、感謝したいものである。まさにモルモン精神は予言者ジョセフ・スミスにより、開拓者たちが正統をついで来たものに外ならない。

◎聖徒の道はこの精神を日本へ伝える回覧板である。全国の兄弟姉妹の誠心ある助力をお願いしたい。

◎各種の活発な投稿を歓迎する。ただし〆切日を厳守すること、それは固くお約束いたしたい。

聖徒の道　第二巻七号
一九五八年七月一日発行
定価一ケ年三百円、一部三十円
編集兼発行人　ポール・C・アンドラス
発行所　東京都港区広尾町十四
末日聖徒イエス・キリスト教会
北部極東伝道部

『正に此の土地だ』の記念碑

ユタの開拓者に捧げて建立された壮大なこの記念碑は、1947年7月24日に奉献された。それはブリガム・ヤングがソルト・レーク盆地を見おろして「正に此の土地だ」と宣言してから百年目であった。